

第19集

神崎市青少年主張大会



と き 令和7年1月25日(土)

ところ 神崎市中央公民館 講堂



第19回 青少年主張大会プログラム

日 時 令和7年1月25日(土) 9:30~12:00

場 所 神埼市中央公民館 講堂

会 順

1 開 会 (9:30~9:40)

(1) 開会のことば 副会長 野副 芳昭(市議会議員)

(2) 会長あいさつ 会 長 實松 尊徳(市 長)

(3) 共催あいさつ 来 賓 藤村 敏江(神埼ロータリークラブ会長)

2 青少年の主張(9:40~11:00)

順番	主張題目	学校名	学年	氏 名
1	日本の伝統文化を世界へ	脊 振 小 学 校	6年	松永 妃穂
2	わたしらしく前をむいて	神 埼 小 学 校	6年	平川 璃子
3	私の将来の夢	西 郷 小 学 校	6年	田中美衣菜
4	地域をよくしていくためにできること	仁 比 山 小 学 校	6年	牟田 杏春
5	平和のためにできること	千代田東部小学校	6年	岸川 明愛
6	明るく住みよい未来へ	千代田中部小学校	6年	大久保咲美
7	この世界へ訴えたいこと	千代田西部小学校	6年	中尾 葉奈
8	戦争の恐ろしさ	脊 振 中 学 校	1年	中島 杏奈
9	「家族の存在」	神 埼 中 学 校	1年	宮崎陽菜乃
10	動物の命について	千 代 田 中 学 校	1年	中島 陽香
11	全ての出会いに感謝して	神 埼 高 校	2年	渡邊 翠
12	いじめの恐ろしさ	神 埼 清 明 高 校	2年	田中 美那
13	被災地支援で感じたことと伝えたいこと	西 九 州 大 学	2年	田中 佑奈
14	将来の姿、描く道	二 十 歳 代 表	-	合瀬 綾香

3 特別出演(11:10~11:30)

○吹奏楽部の演奏 神埼中学校

4 講 評 理事長 牟 田 禎 一(教育長)

5 表 彰 会 長 實 松 尊 徳(市 長)

6 閉 会 副会長 羽 立 一 喜(区長会長)

* 司会 神埼高等学校 2年 齋藤 実桜
 // 1年 前濱 心優
 // 1年 堤 由依

目次

	はじめに……………	神埼市青少年育成市民会議会長	實松尊徳……………	4
	青少年の主張（○は発表者）			
○1	日本の伝統文化を世界へ……………	脊振小学校	松永妃穂……………	5
○2	わたしらしく前をむいて……………	神埼小学校	平川璃子……………	6
○3	私の将来の夢……………	西郷小学校	田中美衣菜……………	7
○4	地域をよくしていくためにできること……………	仁比山小学校	牟田杏春……………	8
○5	平和のためにできること……………	千代田東部小学校	岸川明愛……………	9
○6	明るく住みよい未来へ……………	千代田中部小学校	大久保咲美……………	10
○7	この世界へ訴えたいこと……………	千代田西部小学校	中尾葉奈……………	11
○8	戦争の恐ろしさ……………	脊振中学校	中島杏奈……………	12
○9	「家族の存在」……………	神埼中学校	宮崎陽菜乃……………	13
○10	動物の命について……………	千代田中学校	中島陽香……………	14
○11	全ての出会いに感謝して……………	神埼高校	渡邊陽翠……………	15
○12	いじめの恐ろしさ……………	神埼清明高校	田中美那……………	16
○13	被災地支援で感じたことと伝えたいこと……………	西九州大学	田中佑奈……………	18
○14	将来の姿、描く道……………	二十歳代表	合瀬綾香……………	19
○15	いじめに耳をすまして……………	脊振小学校	坂井陽菜子……………	21
○16	みんなが安全に生活するには……………	神埼小学校	松本宗達……………	22
○17	支えあいでも明るい社会……………	神埼小学校	小野愛杏……………	23
○18	見てみぬフリの思いやり……………	神埼小学校	田中愛佳莉……………	24
○19	野球とぼくの成長……………	神埼小学校	松本琉吹……………	24
○20	「いじめ」をなくすために今できること……………	神埼小学校	貞包和夏……………	25
○21	僕の将来の夢……………	西郷小学校	江島悠悟……………	26
○22	学校と地域のつながり……………	仁比山小学校	森陽菜……………	27
○23	あいさつの大切さ……………	仁比山小学校	江越莉史……………	28
○24	好きなことから……………	千代田東部小学校	高木朱愛……………	29
○25	小さな積み重ねが大きな力になる……………	千代田中部小学校	仁井佑磨……………	30

別
出
演

◇神埼中学校 吹奏楽部のみなさん

26	理学療法士になって助けられる人がいる	千代田西部小学校	五年	黒田紗妃	31
27	修学旅行を終えて	千代田西部小学校	六年	中島桜心	32
28	子どもと大人の相互理解	脊振中学校	二年	永石千洋	33
29	「私たちにできる依存症予防」	神崎中学校	一年	野口千晴	34
30	どうしていいじめは起こるのか	神崎中学校	一年	渡邊璃乃	35
31	私の夢	神崎中学校	一年	川原早稀	36
32	「こんな神崎市にできたらいいな」	神崎中学校	一年	嘉村篤	38
33	「いじめについて」	神崎中学校	二年	寺崎莉来	39
34	夢を叶えて気づいたこと	神崎中学校	二年	佐々木煌	40
35	夢を追うために	神崎中学校	二年	野中碧真	41
36	守り守られる神崎市	神崎中学校	二年	千住真奈香	42
37	わたしの願い	神崎中学校	二年	原田桃花	43
38	私の自慢の家族	千代田中学校	一年	山田礼旺	44
39	私の夢	千代田中学校	一年	副島凜	45
40	表と裏	千代田中学校	二年	佐野明花	47
41	命を守る行動を	千代田中学校	二年	田中希采	48
42	私の成長と夢	千代田中学校	二年	中座貴子	49
43	私たちにできること	神崎高校	一年	松尾桃花	51
44	再挑戦	神崎高校	一年	宮原叶有	52
45	自分の将来	神崎高校	二年	立石悠河	52
46	私の挑戦	神崎清明高校	二年	大坪由真	53
47	私の夢	神崎清明高校	二年	堤芽衣	55
48	私の願い	神崎清明高校	二年	立石愛	56
49	「夢」と「願望」の関係性	神崎清明高校	二年	溝渕杏	57

◎冊子表紙絵
◎主張大会ポスター

西郷小学校	六年	松本幸志郎さんの作品
千代田中学校	三年	船津 心美さんの作品

はじめに



神埼市青少年育成市民会議

会長 實松 尊 徳

青少年の健全育成につきましては、日頃から、各学校をはじめとして関係機関、各種団体、および市民の皆様方の格別のご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。お陰様で、神埼市の多くの若者や子どもたちは勉強、スポーツ、ボランティア活動などに積極的に取り組み、たくましく成長しております。

さて、昨年は「SAGA2024」が開催され、神埼市では、剣道及びハンドボール競技において、全国の皆様をお迎えし、国内最大のスポーツの祭典にふさわしい熱戦が繰り広げられました。

その際、多くの青少年がボランティアとして参加されており、その活動を通して、地域社会との絆を深め、協力や責任感を育む貴重な体験をされております。

さて、私たちの社会は、急速に変化しています。IT技術の進歩やグローバル化が進む中で、青少年の皆さんが直面する課題も多様化しています。環境問題や人権問題、教育の在り方など、様々なテーマについて考えることが求められており、これらの問題に対して、どのような解決策を見出すのか、その視点は非常に貴重なものです。

このような中、神埼市では、規範意識・地域教育力を育て高める

ことを目的に、「神埼市四か条の誓い」を策定し、強く・やさしく・協調心のある神埼の子どもが育つよう努めています。

この「主張大会」は、市内の小・中学生をはじめ、高校生、大学生、二十歳の皆さんが、日常生活の中で気づいたことや訴えたいこと、願いや希望を文章に表し発表することで、自分や社会について深く考えるよい機会とし、家族や学校、地域・社会の問題に関心を持つと共に社会参加を促し、多くの市民の皆さんに青少年に対する理解と関心を深めていただくことを目的として開催しているものです。

ここに掲載された主張は、二〇二名の応募者の中から選考されたもので、いずれも、体験に基づいた自分の生き方や、自らの目でしっかりと見つけた社会問題など、感銘深い内容です。今年の大会では、その中から十四名の皆さんに発表していただきます。

また、特別出演として、神崎中学校吹奏楽部による素晴らしい演奏をお願いしています。神崎高校放送部の皆さんによる美しい発音・発声による司会も楽しみです。

最後に、本大会の開催にあたり共催いただきました神埼ロータリークラブ、また、後援していただきました区長会、自治公民館連絡協議会、PTA連絡協議会、子どもクラブ連絡協議会、神埼地区少年補導員連絡協議会、神埼地区保護司会、そして、ご協力いただいた各学校の先生方、保護者をはじめ関係各位の皆様にご心からお礼を申し上げます。

今後とも、神埼市の発展と地域の教育力の向上に努めてまいりますので、皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

日本の伝統文化を世界へ

脊振小学校 六年 松 永 妃 穂

皆さん、日本の伝統文化と聞いてどのようなものを思い浮かべますか。食べ物が好きな人は寿司に天ぷら、ファッションに興味がある人なら着物。ほかにも、書道に華道、歌舞伎に落語などを挙げでしたら、きりがありません。華やかできらびやかなもの。質素で奥ゆかしさがあるもの。どれも「日本らしさ」だと私は考えます。

日本の伝統文化とは、我が国で古くから伝わっているものです。私は、その日本の伝統文化を世界へもっと広めたいと考えています。

私のおじいちゃんは、大工をしています。それも宮大工です。宮大工は、リフォームをしたり、寺や神社などの設計図を見ながら建物を建て直したりする仕事です。私の家もおじいちゃんが建ててくれた、和風の家です。日本ならではの家なのに、私は、これまで日本の伝統文化について考えたことはありませんでした。

しかし、今、日本の伝統文化を後世に残していくことが厳しいという話を聞き、日本の伝統文化を守りたいという思いがますます強くなりました。実際に、私のおじいちゃんも後継者がいません。

私は、宮大工は素晴らしい職業だと思います。二〇十六年に起きた「熊本地震」では、阿蘇神社が大きな被害を受け崩れてしまいました。再建が難しいとされていましたが、全国から集まった宮大工の方々の手によって、昨年、復旧作業が完了した

というニュースを見ました。日本の伝統的な建築を守っていきたいという思いが、百八十年前に建てられた国の重要文化財を復興へと導いたのです。この素晴らしい技術は、世界に自慢できる日本の伝統文化です。私は、おじいちゃんの思いと共に、世界に広めていきたいです。

現在、日本に訪れる外国人観光客の数は年々増え、九月現在で約二百八十七万二千人に達しました。昨年度と比べて、約二十万人以上増えていることが分かります。この観光客の目的を調べてみると、一位が「自然や風景の見物」二位が「桜の鑑賞」三位が「伝統的日本料理」があげられました。また、外国人に人気の観光地を調べてみると、京都のふしみ稲荷神社、奈良公園、大阪城などが上位をしめています。つまり、日本人とは価値観の違う世界の人でも、日本の文化を美しいと感じる心は共通しているのではないかと考えました。

そこで、外国人が日本の建築のどこに魅力を感じているのか調べました。日本の観光地や建物には、くぎを使わない宮大工の技術や日本の気候に合わせて対応してきた伝統に魅力を感じていることが分かりました。現在、多くの外国人が日本の建物に興味を持っていて、家を買う人もいるということが分かりました。

このように、日本建築の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらうことは、日本文化の継承にもつながることだと考えます。今の私にできることは限られています。まず私自身が世界にこの文化を広めていくために外国語の勉強をして、日本文化の素晴らしいさや奥深さ、たまには厳しさなどを経験し、自分にできる形で伝えていきたいと考えています。

わたしらしく前をむいて

神埼小学校 六年 平 川 璃 子

私は早朝、散歩をすることが好きで、休日の朝六時くらいから散歩に行っています。朝は車が通ることも少ないので、空気も気持ちよく感じます。

ある日、いつものように散歩をしていると、コンクリートがほんの少し割れているところがありました。その時は何も思わなかったけれど、次の日、何だか気になったので行ってみることにしました。すると、その小さな小さなすき間から、ほんの少し芽が出ていたのです。週末、またそこに行つて見てみると、茎や葉が伸びて、花のつぼみも出来ていて、もう咲きそうになっていました。わたしはすごいと思いました。なぜなら、コンクリートの割れ目はアリが入るくらいのすき間だったからです。そこから生えているたんぽぽも元気に咲いていて、植物の強さを感じました。

また、こんなこともありました。この間、おじいちゃんが畑仕事をしていたとき、どうしても抜けない雑草があったので、スコップで掘つて抜くことにしました。その雑草の根は、信じられないくらい深いところまで埋まっていたのです。いつも何とも思っていない雑草も、実はすごいことをしていることが分かりました。わたしたちの知らないところで、こんなにも深く根を伸ばして抜かれることのないように踏ん張って生きているんだなと思いました。

わたしは、今六年生。来年、中学一年生になります。これまでに将来の夢はいろいろありましたが、まだ明確に決まってはいません。どんな職業に就くとしても、かべにぶつかったり、想像していた世界とは違ったりすることがあると思います。それを考えると少し怖いような気もするけれど、どんなときでもわたしはわたしらしく前を向いて、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。

もし、大人になる過程で悩んだりくじけたりしそうになったときには、散歩の途中に見付けた、たんぽぽや、庭の雑草のように、たくましく粘り強く生きていきたいです。このような気付きを、わたしは、身近な植物たちから教わりました。

わたしはこれからも、休日の早朝散歩を続けていきます。散歩の時間は、新しい発見に出会えるような気がしてわくわくします。爽やかな朝の空気を吸いながら、新しい発見を求めておこなう早朝散歩。皆さんもやってみませんか？きつと新しい発見がありますよ。

私の将来の夢

西郷小学校 六年 田 中 美衣菜

ヘアメイクアーティスト。それは、アイドルやモデルなどの有名人、花嫁など、一般の方の特別なシーンに求められるイメージを、ヘアアレンジやメイクで形にする仕事です。そんなプロのヘアメイクアーティストになることが、私の夢です。

私はアイドルが大好きで、ライブに行ったり動画を見たりして応援しています。アイドル達は、ライブのステージ上ではキラキラ輝いて、バラエティ番組ではみんなを笑わせています。そして何より、ライブで手をふったり、ファンの思いに応えたりするファンサービスの姿がかっこいいと思っています。

以前は私も、アイドルになりたいと思っていました。しかし、アイドルを応援しているうちに、アイドルの魅力を引き出しているヘアメイクに関心を抱くようになりました。「どうしてもメイクや洋服が違っただけで、こんなにも印象が変わるのだから。」「色々な舞台に立つ人たちの魅力を引き出したい。」このような思いから、私は、プロのヘアメイクアーティストを将来の夢として意識するようになりました。

ヘアメイクといっても、人に合った様々な方法があります。私が特に大切に考えているのは、その人のパーソナルカラーです。パーソナルカラーとは、その人の肌に一番合う色のことです。目の周りをメイクするときに、パーソナルカラーがオレンジの人に、ピンクをたくさんけると、目が腫れているように

見えてしまいます。しかし、その人の肌に合ったパーソナルカラーを使うと、見た目がきれいになるだけでなく、顔の印象が明るくなるという効果があります。私は、そのようなことを考えながらヘアメイクをしたいと考えています。

こうした考えを具体的にし、夢をかなえることができるように、動画で実際にメイクさんが人にメイクをしている様子を見ながら、パーソナルカラーの知識やメイク技術の勉強をしています。夢を叶えるために勉強にまい進していますが、正直に言うとうそごく難しく悩むことがたくさんありました。そんな状況を打開するために、勉強をするだけでなく、勉強したことを自分にして試してみることにしました。最初は、自分でやってみてもうまくいきませんでした。特にアイライン。目の形も人によって違うので、なかなか上手に描くことができませんでした。ですが、練習を繰り返すうちに、左右のバランスや長さなどが少しずつ上達し、手の感覚が磨かれているような実感が湧いてきました。また、自分が調べたことを自分で試すと、知識が身につくだけでなく、そこから改善点や重点的に学ぶべきことが分かることに気付かされました。

これからも、練習を繰り返したり、調べたことを試したり、試行錯誤しながら知識や技術を高めていきたいです。そして、人の魅力を引き立てることができるプロのヘアメイクアーティストになりたいです。

地域をよくしていくためにできること

仁比山小学校 六年 牟田 杏春

ある日、学校からの帰り道、私のおばあちゃんの畑にゴミが落ちていたのを見つけました。私はその時、とても心がもやもやしました。なぜなら、そこはおばあちゃんが野菜を育てている大切な場所だからです。なのに、前にも誰かが捨てていったゴミをおばあちゃんが拾っているところを見ることがあります。私は、「どうして人の大切な場所にゴミを捨てることができるんだろう」と疑問に思いました。

私は、先生が教えてくれた話を思い出しました。宿場祭りの会場のごみ箱がゴミであふれていた時、一つでも箱の横にゴミがおかれてしまうと、次々にゴミ箱の周りはゴミだらけになってしまふ。その場所が汚いと人は「ここは汚くしてもいい場所なんだ」と思ってしまうという話でした。おばあちゃんの畑は汚い場所ではないけれど、一つでもゴミが落ちていたら、またゴミが捨てられてしまうかもしれないと心配になりました。

そこで、「どうしたら、誰もおばあちゃんの畑にゴミを捨てなくなるんだろう」と考えてみました。

一つ目は、ゴミが落ちていたのを見つけたら、私がゴミを拾おうと思いました。先生から教わったように、最初からその場所をきれいに保つことができれば、ポイ捨てをされにくくなる、と思っただけです。

二つ目は、友達にクリーン作戦に参加することを呼びかけると

いうことです。六月のクリーン作戦に参加して、自分が住んでいる地域をきれいにする活動をするので、もっと自分の地域を大切にしたいと思うようになりました。そういう思いの人が今より増えれば、きっとポイ捨ては減るんじゃないか、と思います。そこで、十月のクリーン作戦には友達を誘って参加しました。六月よりポイ捨てされているごみが減っていて、うれしくなりました。このままポイ捨てがなくなればいいなあと思いました。

三つめは、たとえ自分が住む地域でなくても、そこが誰かにとっては大事な場所だ、という想像力をもつことができれば、誰もがポイ捨てをしなくなるんじゃないか、ということです。だから、まずは自分自身が想像力をもつて、自分の地域だけでなく人が大切にしているものを自分も大切にしていきたいと思えます。

四つ目に、もっと地域のことを知ることです。地域のことを知ることによりその場所を大切に思うことができるのではないかと思います。だから、私は自分の地区、町、県のことについてニュースを見たり、家族に聞いたりすることでこれから詳しく知り、きれいな環境を保ちたいと思いました。

このように、一人一人がほんの少しだけ意識することで、簡単にできると考えます。自分の地域をよくすることは、自分の大切な場所やほかの人の大切な場所をきれいにすることだと思えます。だからコツコツ、楽しく続けていきたいです。

平和のためにできること

千代田東部小学校 六年 岸 川 明 愛

みなさんは、戦争についてどう考えていますか。平和についてどう考えていますか。私は、「戦争はたくさんの方の命をうばってしまう。だから、平和な世の中になってほしい。」と考えています。そして、長崎での修学旅行を終えて、さらにその思いが強くなりました。

戦争は、こんなにも恐ろしくて悲しいものなのか。被爆者の方の話を聞いて、私はそう感じました。たくさんの方の写真や話を見たり聞いたりする中で、私が一番印象的だったものは、幼い弟を背負って立っている少年の写真です。初めは真っ直ぐに気を付けをして遠くを見ているのだろうと思っていました。しかし、話を聞くと、亡くなった弟の火葬をじっと待っている時の写真だったのです。その真実を知り、私は胸が痛くなりました。何も悪くない小さな子どもの命までうばってしまう。毎日続く空襲警報で夜も安心して眠ることができない。お腹が空いてもがまんしなければいけない。これが戦争です。今当たり前のようにできていることが、当たり前ではなくなってしまうのです。だから、戦争のない平和な世の中にしていかなければいけません。そこで、私にできることを二つ考えました。

一つ目は、戦争の恐ろしさを伝えることです。被爆者の方は、日本が戦争を行った理由、原子爆弾の威力や被害、その時の実際の様子などを、くわしく話してくださいました。大切な

ことは、このことを忘れないことです。話を聞いて知ったことやその時に感じた戦争の悲惨さや今が平和であることのありがたさを、全校のみんなや家族にしっかりと伝えていきたいです。

二つ目は、私の夢を叶えることです。私の夢は、警察官になって、誰もが安心して暮らせる平和な世の中をつくっていくことです。私一人の力で戦争をなくすことは難しいですが、警察官として誰もが安心して暮らせるようにしていくことはできます。そして、警察官として努力を続けていけば、平和な世の中につながっていくと思います。だから、警察官になるために私は今、「自分から進んで挨拶をする。」、「周りのことをよく見る。」、「困っている友達がいいたら、声を掛けて助ける。」という三つのことをがんばっています。

このように、私にできることは、長崎の地で知ったことを周りの人たちに伝え、自分自身の力で世の中を平和にしていこうと思います。しかし、私の力だけではできないこともあります。みなさんの力が必要です。みなさん一人一人が戦争や平和について考え、自分のできることに取り組んでいくことが大切なのです。あなたにできることは何ですか。私たちの力で、戦争のない平和な世の中をつくっていきましょう。

明るく住みよい未来へ

千代田中部小学校 六年 大久保 咲 美

なぜ、罪のない人まで悲しい思いをしなければならないのでしょうか。日々テレビから流れてくるニュースを見るたびにそう思っています。

社会を明るくすることについてどうすることが、社会を明るくすることなのか分かりませんでした。調べてみると、すべての日本国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生の理解を深め、いろいろな立場において、力を合わせて犯罪や非行のない明るい地域社会を築こうとすることだということが分かりました。

犯罪や非行については、六年生で佐藤弁護士による授業を受けたときに学びました。犯罪とは法を破り罪を犯すこと、非行は社会通念上正しくない行為のことです。このことは、子供のころから両親に教えてもらったり学校でも学んだりすることです。だから、やってはいけないことだと誰もが分かっているはずなのです。それなのになぜ、人は犯罪を犯したり非行に走ったりするのでしょうか。

ニュースや新聞をみると、日本だけではなく世界中で犯罪が起きていることが分かります。お金がなくて生活に困り人の物を盗んでしまう人、ストレスがたまり知らない人を傷つけしまう人、それらを何度も繰り返す人などがいます。

私の生活に置き換えて考えてみると、いじめによく似ている

と思いました。いじめはやってはいけないことだと分かっているはずですが。それでもいじめはなくなりません。いじめの発生件数は全国で年間約六十八万件報告されています。それだけではなく、いじめがきっかけで自ら命を絶つ人は昨年一年間に五百人以上もいるそうです。世の中の犯罪や非行がなくならないことといじめの問題はよく似ているなと思います。

では、学校生活においてなぜいじめは起きるのでしょうか。いじめている人は「ふざけて遊んでいる」「嫌いだから無視をしているだけ」だと思います。それが何度も続くことで次第にエスカレートしていき、いじめを受けている人の心は傷付いていくのです。

いじめはなくすことができないのでしょうか。わたしはなすすことはできると思います。いじめをなくす第一歩は人と人との心の関係を築いていくことだと考えます。例えば、毎日笑顔であいさつをすること。相手を思いやる優しい言葉をかけること。相手の嫌がることをしないこと。こういった心がけ一つで簡単にできることはたくさんあるのです。また、いじめを受けて辛い思いをしている友達の話聞き、共に悩みを受け止めてあげることも大切なことだと思います。私は家族とけんかすることがあります。しかし、私が悩んだときには寄りそって話を聞いてくれます。辛いことや悲しいことを自分一人のため込むのではなく、誰か一人でも聞いてくれる人がいると心が安定します。私は自分が家族や友達にしてもらっているように、元気がない友達や悩んでいる友達には寄りそって話を聞き、悩みを受け止めてあげたいと思います。私ができることはちよつとし

ただ、続けていくことが大切だと思います。その思いが周りの人につながりいいはじめはなくなると信じています。

みんなが安心してくらせる街にするために、私たち一人ひとりができることを積み重ねていくことが大切です。小さな行動が大きな変化につながり、明るい社会を実現する力になると信じています。

この世界へ訴えたいこと

千代田西部小学校 六年 中 尾 葉 奈

私は、十月十七日、十八日にあった修学旅行でたくさんのお話を学びました。その修学旅行を通して、この世界へ訴えたいことが出てきました。それは「この世界から戦争を無くし、世界中の人々が安心・安全な暮らしができるようになってほしい」ということです。このようなことを訴えたい理由が、大きく二つあります。

一つ目は、長崎で、戦争についての恐ろしさ、平和や命の尊さを改めて学んだからです。修学旅行の一日目に、被爆者の八木道子さんの講話を聴きました。八木さんは、講話の最初に、「平和はトコトコやって来ない。黙っているのではなく、話さないと平和はやって来ない。なので、私は話しているんです。」と言われました。だけど、私は、その言葉の意味があまり分かりませんでした。その言葉から始まった講話は、私に

とって、とても恐ろしいと感じるものでした。でも、恐ろしいと感じたおかげで、八木さんが言われた言葉の意味が分かりました。「できることなら戦争のことは誰にも話したくない。だが、自分が話さないと戦争の恐ろしさを知らない人ばかりになってしまふ。そうすると、あの戦争が繰り返されてしまふ。そうならないためにも、戦争のありのままを伝える。生きていく限り伝え続ける。そうすれば、きっと平和はやってくる。」そういう意味だったのではないかと思いました。

修学旅行では、八木さんの講話の他に、長崎原爆資料館などにも行きました。そこでも、戦争の被害の実情を知り、平和や命が、どれだけ尊いものであるか考えさせられました。戦争は、絶対にしないほしい。その気持ちだが、とても強くなりました。

二つ目は、今もこの世界で戦争をしている国があるからです。テレビなどを見ると、戦争のニュースが流れてきます。そのニュースを見るたび、無関係な人まで亡くなってしまう戦争を、なぜするのだろう、戦争をする意味はあるのか、と考えてしまいます。国を守るために、戦争という手段を取らざるを得ないのかもしれない。だけど、国を守るための戦争で、国民をたくさん失うことになるのなら、戦争は、自分の国を、国民を自分たちで傷付けているだけということになります。戦争は、国と国のけんかですが、本当は、その国を治める大人同士のけんかです。その大人たちが、本当に自分たちの国を愛しているのなら、戦争はこの世から消え、世界中の人々は、安心・安全な暮らしができるようになるはずです。

世界から戦争を無くすことは、簡単なことではないと分かっています。だけど、この世界から戦争が消え、世界中が平和になることを望みたいです。八木さんの思いを受け継ぐのは、私たちだと思っています。世界中の人々にとっての本当の平和が訪れますように。

戦争の恐ろしさ

脊振中学校 一年 中 島 杏 奈

今、ウクライナとロシアで戦争をしていることを皆さんは知っていますか・イスラエルとハマスも、戦争をしています。かつては日本も戦争をしていました。戦争では、たくさんの方が失われたり、家がなくなったりして、悲しいことがたくさんあります。命を奪う恐ろしい戦争は、絶対にしてはいけません。私は思います。

日本が戦争をしていたころ、子供も戦争の訓練をしたり、働いたりしていました。人々は戦争に協力し、暮らしてはすべて戦争のために制限されていました。第二次世界大戦で亡くなった日本人の数は、約三百万人と言われています。すさまじい数で、想像もできません。このことを知ったとき、私は、怖くて心が痛くなりました。

私は、六年生の時の修学旅行で、被爆地長崎に行きました。原爆資料館では、熱で溶けた時計、丸焦げになった人や馬の写

真を見ました。原爆の恐ろしさが、強く伝わってきました。また、山王神社には、原爆の爆風で一本柱になってしまった鳥居がありました。強烈な爆風だったことがわかって、ますます怖くなりました。そして、今でも心に残っていることは、語り部の陸門さんのお話です。兄弟の被爆した様子、長崎に生まれたことで差別を受けたお話聞きました。悲しすぎるお話でした。原爆は、放射線を出し、人の体に悪影響を及ぼします。被爆後何年かたって出る症状もあり、戦後九十年になろうとしている今でも、不安な生活を送っている人もいます。人々の暮らしを破壊する戦争は、絶対にしてはいけません。

ウクライナとロシアの戦争、ロシア軍の死者数は五万人、ウクライナ軍の死者数は三万人を超えています。イスラエルとハマスの戦争では、ガザの死者数は三万八千人を超え、負傷者は九万人になろうとしています。多くの人が亡くなったたり、傷つけられたりするのに、なぜ戦争をするのか疑問です。私には、理解できません。

たくさんの人の命を奪う戦争は、過去に、世界中で何回も繰り返されています。戦争の起こる原因は主に五つあります。それは、「民族」の争い、「宗教」の争い、「資源」の争い、「政治」の争い、「領土」の争いです。命より大切なものはないことを、誰もが知っています。それなのに、なぜ、このようなことで戦争が起こるのでしょうか。私も、けんかはしたことがあります。友達と考えが違うことが原因でした。そう考えると、身近に起きたけんかが大きくなったものが、戦争なのかもしれせん。

私は今、おいしいものを食べたり、学校で勉強したり、友達と遊んだりすることが出来ます。私には夢もあります。パティシエになることを夢見て、日々頑張っています。ウクライナやガザに住む人たちは、どうでしょう。きっと自由に食べたり、学んだり、勉強することもできないし、夢なんてもつこともできないでしょう。

私たちには、等しく「幸せになる権利」があります。人々の関係や生活をぼろぼろにする戦争は、絶対にしてはいけないのです。日本には、かつて戦争をしていたという事実があり、たくさんの人々を苦しめた戦争を、もう二度としないように、私たちが戦争の恐ろしさを伝えていかなければならないと思います。私は、家族や友達や地域の方々に、思いやりの気持ちを持つことはもちろん、自分と意見の違う人の気持ちも考えていこうと思います。みんなが、戦争の恐ろしさを知ること、この世から戦争がなくなること、心から願っています。

「家族の存在」

神埼中学校 一年 宮 崎 陽菜乃

あなたは家族の存在の大きさについて考えたことはありませんか？私はこの青少年主張を通して家族の大切さについて考えることが出来ました。そしてみんなにも考えてもらいたいと思います、このテーマに決めました。

私は四人家族で犬を一匹飼っています。母は、いつも明るく、がんばったときは褒めてくれて、悪いことをしたときは厳しく注意してくれます。部活が朝早くても、夜遅くても送り迎えをしてくれます。父は、毎日仕事をがんばってくれて、話すときも楽しく話してくれます。弟は自閉症です。話すことや人の気持ちを考えることが苦手です。しかし、工作がとても上手で本をたくさん読みます。

私が友達関係で困ったときもすぐに相談にのってくれてはげましてくれたり、たくさん意見を言ってくれたりします。私も家族に恩返しをしたいと思い、テストで良い結果を出して、テスト勉強をがんばりました。良い結果を見せることができて、みんな笑顔で喜んでくれたので嬉しかったです。家族の笑顔を見ただけで、自分も笑顔になれる家族の存在は大きなと改めて感じる事ができました。今では部活で帰りが遅かったり、母や父、弟も仕事や学校で帰りが遅く、話す時間も一気に減りました。だからこそ、一日一日の家族の時間をもっと大切にしようと思いました。

私の弟は自閉症です。家族との会話で話がかみ合わないこともたくさんあります。そのことがきっかけで私と弟のけんかにつながることも多いです。それでも父と母が二人の気持ちを落ち着かせてくれたり、寄り添ってくれたりします。両親から遺伝子を受け継いで生まれてくる確率は七十兆分の一だそうです。私の父と母のもとで生まれてきて良かったなとすごく思います。

最近、能登半島で大雨が降りました。家が流されたり、川が

氾濫したりなど、たくさんの方が被害があったそうです。死者は十六人出たそうで、私たちと同じ中学生も亡くなったそうです。親や親せきを亡くした子どももいます。このような子どもたちが家族の存在の大きさに早く気付くのかなと思いました。ですので、毎日の家族の時間を大切にしてほしいと思い、みんなに伝えたいと思いました。

私は最近、家族みんなで遊園地に行きました。中学生になって部活で忙しく夏休みに旅行に行けなかったので、久しぶりにみんなで出かけました。長い時間車に乗っていても話さない時間がないくらいずっと話すことができました。遊園地でも、みんなと同じアトラクションに乗ったり、ずっと一緒にいることができて、みんな笑顔になりました。こんな家族の時間もつと増えたらいいなと思いました。

このように私の周りには支えてくれる父、母がいます。いつも、送り迎えをしてくれる。怒ってくれたり、褒めてくれる。私がしたいことに賛成してくれて、支えてくれる。私の行きたいところ、食べたいものがあると連れて行ってくれる。私が困ったとき、すぐにかけてつけてくれて相談のつてくれる。こんなに私のことを思っていて行動してくれる両親の存在はとて大きいことに気付きました。そして、もっともっと大切にしたいと思えました。こんな家族が私は一番大好きです。みんなにも、家族の大切さについて考えてほしいと思いました。そして、一日一日の家族との時間を大切にしてほしいです。

動物の命について

千代田中学校 一年 中 島 陽 香

ペットは家族の一員です。私は、物心つく前からいつもそばに犬や猫が居たこともあり、将来は動物関連の仕事に就きたいと思っています。

しかし今の日本は飼っているペットのことを下に見ている傾向があるのではないかと思っています。「動物虐待」「殺処分」などテレビのニュースやインターネットの記事で見聞きます。この言葉を耳にするたびに、私はいたたまれない気持ちになるのです。

私たちはペットを自分以上、または同等の存在だと思うべきではないでしょうか。なぜなら、動物も人間と同じ、かけがえない命をもっているからです。

今の日本は外国と比べると動物愛護があまり進んでいないと思います。動物愛護先進国のドイツではペットの楽園といわれるほど、社会全体に動物愛護の精神が根付いており、殺処分もゼロだと知りました。日本の殺処分は十年前に比べて十分の一に減少していますが、それでも保護された七十七パーセントが殺処分されています。日本も早くドイツのような動物に優しい国になることを願います。

私達が住んでいる佐賀県の殺処分件数を調べてみると、二〇二三年度の県内の殺処分件数は犬が十四匹、猫が九匹で、過去十年で最も少なくなっていました。佐賀では、動物愛護推進に努

めており、動物福祉の観点から必要とされる時のみ殺処分が行われているそうです。この状態のまま続いて行けば、いつか佐賀県の殺処分がゼロになることも夢ではないと考えます。

保健所に連れて行かれることが多い犬猫の捨てられる理由として、「世話が出来ない」、「凶暴で手に負えない」など様々ですが、ほとんどが飼い主の都合であって別に飼われている動物が悪い訳ではないことが多いのです。

確かに動物を飼うのは難しいです。かわいいという理由だけでは飼えません。人間と同様、食事や排せつなどの世話をする必要があります。育児と同じだと私の母は言っています。

現在私の家では犬と猫を一匹ずつ飼っています。犬は一日二回必ず散歩に連れて行かなければいけません。しかも、周囲の音に敏感で、音がすると吠える性格なので、人通りの少ない朝早く、夕方遅い時間帯に散歩をしています。また、兄が拾ってきた子猫は、高いところを目指して、人の体をよじ登るの、家族みんな傷だらけになりました。夜中も暴れまわり、寝不足が続いたこともありました。しかし、一年経った今は家族の一員でかけがえのない存在になっています。

皆さんはアニマルセラピーをご存じですか。

アニマルセラピーとは、人と動物のふれあいを通じて心身の健康やリハビリが目的の活動のことです。最近、都会の学校で先生が飼っている犬を「学校犬」として学校に連れてきているところがあることを知りました。学校犬を導入することで不登校や引きこもりの生徒のサポートや命を大切にすることを育む効果があるそうです。命を大切に作る気持ちが生まれるならば、

私の学校にもぜひ導入してほしいです。

最後にみなさんにお願ひがあります。動物を理不尽な理由で嫌わないうちに動物に助けてもらっているからです。例えば、犬や猫などペットとなる動物からは癒しを、牛や豚、鶏からは命をもらっています。自覚していないだけで他にもさまざまな動物から恩をもらっているかもしれないかもしれません。だからこそ動物たちをないがしろにしてほしくないのです。世話をすればするほど動物たちは可愛さと魅力を発揮してくれます。

皆さんも一方的に嫌わず、動物の魅力を探してみてはいかがでしょう。私と一緒に世界から「動物虐待」や「殺処分」ということばをなくしていきましょう。

全ての出会いに感謝して

神埼高校 二年 渡 邊 翠

私は、高校一年生から二年生に進級したときに、初めてクラス替えを経験しました。私が通っていた小学校や中学校はクラスずつしかなく、人数も十数人しかいないクラスがほとんどでした。そのため、高校に進学したとき、人の多さに圧倒されました。一クラスに、中学校の全校生徒と同じくらいの人数がいて、とても驚きました。私は自分から話しかけることが得意ではありません。また、高校に入学するまで、同じク

ラスにいるほとんどの友達が幼なじみだったので、新しい友達を作ることあまり経験してきませんでした。だから、高校に入ってからすぐは、「とても仲がよい」と言える友達を作ることができず、中学校まで一緒だった友達のことがとても恋しかったです。（今では高校でも楽しく話すことができる友達ができました。）他にも、中学校までの生活と、高校に入ってからので生活で変わったことはたくさんありましたが、その一方で、似ているところもあります。それは、地域との関わりが強いところ。中学三年生のときは、総合的な学習の時間に地域の企業の方に協力してもらいながら、クラスで一つの会社を起業しました。協力してくださった企業の方々の商品を仕入れ、町の公園で店舗を開きました。高校二年生の今、総合的な探究の時間に、地域の方々に協力してもらいながら、図書館や保育園など、自分の将来と照らし合わせながら選択した場所で、様々な活動をさせてもらっています。これらの経験から、どこにいても地域との関わりがあることは、とてもありがたいことだと感じています。

また、私は高校二年生という、高校時代一番自由に活動できる時に、新しいことにチャレンジをしたいと思い、二つのことに挑戦しました。一つ目は、佐賀県高等学校音楽コンクールのピアノ部門に出場したことです。コンクールでは、これまで弾いてきた曲よりも難易度の高い曲に挑戦しました。本番では、うまくいかないところもありましたが、銀賞をとることができました。成績発表で銀賞だと聞いたときは驚きましたが、とても嬉しかったです。ピアノの先生にたくさん教えてもらい、ア

ドバイスをもたらったことで、この賞をとることができたと思っています。二つ目は、佐賀で開催された国民スポーツ大会のボランティアに参加したことです。私が参加したのは、開会式などでパフォーマンズをするというものです。友達を作るのが苦手な私ですが、このボランティアを通して他校の友達ができました。ダンスの先生方や県庁の職員の方々、引率してくださる学校の先生方、家族、友達とたくさんの人に支えてもらい頑張ることができました。

このように、私が様々なことを学んだり、様々なことに挑戦することができたりするのは、学校の先生方や習い事の先生方、家族のみんな、地域の方々などたくさんの人に支えてもらっているからです。私が楽しい学校生活を送ることができているのは、友達が側にいてくれるからです。私の人生にはたくさんの方が関わってくれています。たくさんの人との出会いがあって、今の私がいます。全ての出会いに感謝して、これからも過ごしていきます。

いじめの恐ろしさ

神埼清明高校 二年 田中美那

皆さんは、いじめに遭ったことがありますか。遭ったことがある人は、とても苦しく、辛い思いをされたと思います。いじめはない方がもちろんいいですし、遭わない方が苦しむ必要も

ありません。しかし、現状として自殺の一番の原因がいじめです。皆さんの周りにもいじめで苦しんでいる人がいるかもしれません。皆さんはいじめで苦しんでいる人がいたとき、どう対応しますか？

私は、小学二年生から小学四年生の間と中学一年生のとき、同じ人にいじめを受けていました。背中に雪を投げられたり、靴の中に画鋲を入れられたり、嘘をつかれたり……。私は覚えていませんが母の話によると、お金を要求されたこともあったそうです。私をいじめていたのはわたしより年上の人でした。学年も違ったので学校で直接何かされたことはありませんでした。が、決まって登校するときにいじめられました。私が通っていた学校のある場所は田舎で人通りも少ないため、簡単だったと思います。私がそのようないじめを受けても、不登校にならずに済んだのは、両親や、学校の先生による素早い対応があったからです。あのとき、素早い対応をされていなければ、私はここにいなかったかもしれません。

もう一度、皆さんに問います。もし、いじめられている人を見たら、どう対応しますか。見て見ぬフリをしますか？知らないフリをしますか？いじめを受けている人に声をかけるのは、とても勇気のいることだと思います。自分が標的になったとしても怖いし、何をされるか考えると余計に怖くなってしまいきます。ですが、たった一言の「大丈夫？」や「おはよう。」でもいいめられている人には救いの手になります。声をかけるのがどうしても怖ければ、学校の先生や親など、周りの信頼できる大人たちに相談してみるのも一つの救いになります。どんな形

でも方法でも構いません。いじめにあっている人を見つけたら助けてあげてください。

いじめには様々な要因があります。病気や障害、肌の色、国の違いや家庭環境によってもいじめが起こります。もちろん、如何なる理由があってもいじめていいことにはなりません。ですが、実際にこのような要因でいじめが起きているのです。現在は、インターネット上でのいじめも多発しています。これから私たちが生きていく中でインターネットやSNSは欠かせないものです。インターネット上では顔が見えない分、普段自分が口にしないような言葉も出がちです。ですが、画面の向こう側にいる人も生身の人間です。顔が見えなくても、なにかを投稿する際は、誰かが傷つくかもしれないという意識を常に持つて使っていくことが大切です。

私が皆さんに大切にしてほしいことが二つあります。一つ目は、いじめられた側はされたことをずっと覚えていいるということです。いじめた側は覚えていなくても、された側は心に大きな傷を抱えています。周りの友達にももしかしたら、傷を抱えている人がいるかもしれません。平気そうにしている心には深い傷があるかもしれません。

大切なのは、相手の気持ちを考えながら話すことです。自分が言われ嫌なことは相手にもしてはいけません。当たり前のことが当たり前でできるようにすることも大切です。

二つ目は、肌の色や病気、障害などによる差別を辞めてください。あなたの何気ない一言が人を傷つけます。人と何か違うということとは、とても素晴らしいことです。肌の色も障害も個

性の一つです。人はみんな違って当たり前です。容姿、性格、できることがまったく同じ人は存在しません。だから世界は発展していきます。全員が同じ性格、同じ考え方だったら、何も変わらないままです。大切なのは、互いを認め合い、しることです。

この二つを心がけることで苦しんでいる人を救うことができます。決めつけず、まずは知ることがとても大切です。

最後に、私が皆さんに伝えたいことは、自分の言動全てに責任を持ってほしいということです。何気なく発した言葉や行動が人を傷つけます。直接的に何かしていなくても、言葉や文章だけで人を殺せるということを忘れないください。私たちのちよつとした配慮と温かい言葉で救われる人がいます。私は、世界中のいろんな人達と笑顔で横並びで歩ける未来と社会を作っていききたいです。

被災地支援で感じたことと伝えたいこと

西九州大学 二年 田 中 佑 奈

二〇二四年一月一日石川県能登地方で発生した地震は、皆さんの記憶に新しいと思います。私もその日は、祖母の家に行き家族で過ごしていました。十六時頃に地震速報が流れ、大津波警報も発表されました。その日から毎日のように、能登の被害の甚大さや行方不明者、死亡者等のニュースが報道されるよう

になりました。私も、毎日ニュースを欠かさず見て能登がどのような現状か確認するようにしていました。しかし、復旧作業がなかなか進まないことに大変だと感じる一方で現実味が無く、どこか他人事のように感じていたのも事実です。私も現地に行き、自分の目で見て考え少しでも力になれることはないかと思い九月十五日から一週間、石川県で被災地支援に参加をしました。

参加のきっかけは、大学の先生に声をかけていただいたことでした。私自身、何かできることはないかと考える反面、なかなか行動に移すことができていませんでした。今回の活動を通じて「被災地で自分ができることは何か」を学びたいという思いで参加をしました。

活動拠点として、七尾市にある集会所を利用し活動を開始しました。一週間の活動内容は、被災地の視察、被害に遭った住民さん宅の片づけ、仮設住宅への物資配布、地域行事への参加、避難所の運営補助です。

仮設住宅や居宅への訪問で住民の方との交流を図ることができました。また、重要無形文化財のお祭りへの参加でも交流することができました。担い手不足という課題もあり、ボランティアの私たちの受け入れてくださり参加することができました。人手不足や今回の地震を経て、どのように地域の伝統を継承していくかも自分の目で見て、ボランティアとして学ぶことができました。

輪島市へ視察に行った際、豪雨に遭い通行止めがかかり道の駅で避難をするようになりました。そこで避難所の運営補助を

行いました。避難されてきた方の中には、靴を履いてない方、反対に食料もしっかり準備されている方もいらつしやいました。避難所では、身体的な疲れさらに精神的にも疲労がたまると思います。その中で、私たちが一人ひとりに合わせた声掛けをし、何を求められているのか考えサポートをする必要性を学ぶことができました。

一番印象に残った活動は、被災家屋の片づけです。必要、不要の判断が難しく作業が止まることが多々ありました。また、作業中何度も「すみません」と口にされており、不安な様子を伺うことができました。さらに、どんどん片付く部屋を見て「片付いて嬉しい」と話される一方、ふとした時に「物がなくなり家が空っぽになると寂しい」と口にされていました。私はこの一言が印象に残り忘れられません。被害に遭い、ご家族が大切にされていたものを処分する心苦しさ、家が全壊している大切な物を取りに行くことすらできないもどかしさのどちらも感じ取ることができました。ボランティアとして、整理のお手伝いをさせていただく際には、住民さんの意思を最大限に尊重し、焦らせず、必要なものを取り出してもらうための声掛けの重要性を学ぶことができました。

最後に、震災に関する知識を少しでも持つことで自分の命を守ることができます。そして、地域と普段からかわりを持つておくことで、地域間での助け合いができ互助が生まれ助かる命がまた増えます。「地震や豪雨を怖いね」と言うだけではなく、いつでも避難できるように再度避難方法や身の守り方について学び周知する必要性があると感じました。災害が多くなっ

ている今だからこそ、一人一人が自分事のように考える必要があると、被災地支援を通じて強く思います。
ご清聴ありがとうございました。

将来の姿、描く道

二十歳代表 合 瀬 綾 香

私は将来、管理栄養士の資格を持つ地域に寄り添った、地域の方と密に関われる活動ができる栄養士になりたいと思っています。

その思いの原点は、幼い頃祖父と一緒に山の畑で野菜を植えたり、収穫したり、畑を耕したりするのを手伝っていた経験にあります。澄んだ山の空気の中で祖父と作業をした楽しさは今でも覚えています。その中で感じたのは、種から育てて大きく実った野菜を収穫した時の達成感と、収穫直後の野菜のおいしさです。そこから農業や自然が好きになり、農業に興味を持つようになりました。

高校で進路を考えるにあたり、農業に関する様々なことを調べていく中で、品種改良がおこなわれ、昔よりもはるかに進化した野菜が多くあることを知りました。そして、時が経つにつれ、農業を研究や品種改良の面から支えたいという気持ちに変わりました。野菜の品種改良等を行い、多くの人においしいと思ってもらえるような栄養価の高い野菜を開発したい。新しい

ものを生み出すという観点から、商品開発の仕事にも携わってみたいと思うようになりました。

その思いから私は今、西九州大学で、管理栄養士の資格を取るために勉強しています。免許を取得するためには、栄養学の知識だけでなく、衛生管理や食品の機能、微生物についてなど多方面の学びが必要なのだと大学で初めて知りました。私が大学を選んだ決め手となったのは、西九大が食品の成分を研究し、実際に商品開発を行っていることです。その商品が神埼市のお土産として有名なひしぼうろです。菱焼酎を製造する過程で廃棄されていた菱の皮を何とかできないかと考え、開発された商品です。このような形で地域と関わりを持ち、新たなものを開発することが私のやりたいことのひとつ目です。

実はもう一つ考えていることがあります。それはワンちゃんと飼い主さんが憩える場所を身近に設けることです。突飛な考えかもしれませんが、この春から犬を飼い始めて切実に思うようになりました。それは、比較的高齢の方が犬を飼われていることが多いことや、飼い主と犬がゆっくり過ごせて他の飼い主さんとかと関わりを持つことができる場所を探すのが難しい現状を知ったからです。私は、犬と散歩をしていて他の飼い主さんとかとすれ違うことがあります、その際には自ら挨拶しコミュニケーションをとることを意識しています。そうすることで、飼い主さんがワンちゃんに関して困っていることを打ち明けてくださることが多いのです。ドックフードだけではご飯を食べたくないということや、犬を遊ばせたくても近くにないから困っているなど様々なことを相談されます。実際に私も愛犬に

ご飯を作っていますが、栄養やドックフードに使用されている食材のことを考えると手作りのほうがワンちゃんの体によい、手作りがほとんどドックフードを半分ずつ与えています。私の持つ栄養の知識も飼い主さんたちに発信していければと思っています。これらの経験から、犬と飼い主さんが憩いながら交流できる場所を設けることが、私の第二の夢になっています。

人の幸せには健康が関わっており、そのためには食、栄養を気にかけることが大切だと考えています。また、人と人との関りを避けずに向き合うことも幸せのためには大切なのではないかと考えます。人とコミュニケーションをとることは、食と同じように脳と体を活性化させる大切な栄養源です。私はコミュニケーションと栄養について、その二つを同時に考えられる仕事に就くことを目指していきます。人の栄養と、犬の栄養の二つの面の知識を持つ管理栄養士になりたいと思います。

ある方から、「あなたの生き方の姿勢が素晴らしい」と言っていたいただきました。私のとりとめもない夢を理解してもらった気がして嬉しくなりました。

どこまで実現できるかまだまだ未知数ですが「想いは実る」の強い気持ちで、先ずは一步ずつ、学習による知識と実習や実体験による経験を積み重ねながら、夢の実現に近づいていきたいと思っています。

いじめに耳をすまして

脊振小学校 五年 坂 井 陽菜子

「どうということがいじめなの。」私はよく考えたことがありますでした。

学校からもらったいじめについてのアンケートで、「友達からいやなことやぼう力を受けたことはありませんか」とか、「親、兄弟からぼう言やぼう力を受けたことはありませんか」とたずねられました。どんなことがぼう言なのか、ぼう力なのかと思い、辞書で調べてみました。

「ぼう言」は、失礼でらんぼうな言葉という意味です。そう思うと、私は前に、自分のようにして気になっていることを言われて、悲しくなったことを思い出しました。いやなことを言われてきづくことは言葉のいじめなのだと思います。「ぼう力」は、らんぼうに人をいためつけること、と書いてありました。ぼう力は、テレビのニュースでよく耳にします。最近耳にしたニュースでは、まだ保育園児くらいの小さな子どもが、両親からのぼう力を受けてなくなったという悲しいニュースです。大切に育てられるはずなのに、なぜ、死ぬまでぼう力を受け続けなければならなかったのか、「助けて」と言っても聞いてもらえなかったのだらうと思うとたえられません。

また、最近はネットでのいじめが多発しています。SNSでコメントを入れたばかりに、橋の上から川へつき落とされ、命をたたれた高校生がいました。直接にぼう言を言われたわけ

もなく、ぼう力をされたわけでもなく、ただ文字だけで人の心をきずつけてしまう。だからなのだらう。何度もSNSに注意しなさいと学校でも家庭でも言われていたことが、やっとわかりました。

親や兄弟からのぼう力、友達からのぼう言や無視、SNSからの書きこみなどいじめは世界中でおこっています。人はみんな幸せになるけん利を持っています。いじめによって、命を落とすことがないような世界にしたいと思います。差別のない明るく平和な社会がいいと思います。

私には、祖父、父、母、兄が三人いますが、みんな私にはとても優しくしてくれます。学校にはたくさん友達がいいます。とくに四年生と五年生の友達とは仲良しです。ぼう力、ぼう言はありません。いじめられたこともないし、いじめを見たこともないし、もちろん、いじめをしたこともありません。私のように、みんなが家族に愛され、友達と仲良く過ごせるような世の中になつてほしいと思います。

でも、今回考えてみると、私が気づいていなかっただけで、だれかをきずつけていたり、だれかがきずついたこともあったかもしれません。そんなことがないように、いじめに耳をすまして、しっかりと考えていきたいと思っています。どんな人にも優しく接して、いじめを受けている人を助けていきたいと思っています。また、いじめをしている人を見かけたら、「そんなことをしたらだめだよ。」と言える強い人間になりたいです。

みんなが安全に生活するには

神埼小学校 五年 松 本 宗 達

世界には、交通事故や泥棒など、災難にあう人がたくさんいる。わたしは、みんなが安全に生活するために交通事故や泥棒の侵入を防ぐ対策をすることが必要だと考える。

まず、交通事故を防ぐための方法として、反射タスキをつけることをすすめたい。わたしの兄は、部活動で夜に帰ってくることが多い。交通事故にあわないように反射タスキをもつて学校に行く。そのため、私の兄は今までに事故に全くあっていない。反射タスキを付けていると、自動車のライトなどに反射してとても光って見える。付けていない人よりも付けている人の方が自動車から発見されやすくなる効果がある。

反射タスキを持つていなかった場合はどうしたらいいか心配な人もいるかもしれない。それならば白や黄色など、夜でも目立つような明るい色の服やカバン、レジ袋、タオルなどを代用するといい。すると、交通事故にあいにくくなるのではないだろうか。

交通事故にあいやすい場面として、自転車に乗っているときもある。そのときも自転車や体に光を反射するものを付けておくといい。そうすると、事故にあう確率が減ると思う。

次に、泥棒にあわないようにするために考えてきた理由は、わたしの祖父のことである。わたしの祖父は、一度泥棒の被害にあったことがある。泥棒は、犯罪である。だから、もう

二度とあわないように対策を三つ考えた。

一つ目は、戸締りをしっかりとすることだ。泥棒は、窓から侵入することが多いそうだ。そのため、出かけるときには窓の戸締りをしっかりと確認しておくことが大切である。

二つ目は、家にいないときでも電気を付けおくことだ。わたしの母がしていることで、外出の際にリビングの電気をつけておくことを実せんしている。泥棒は家に誰かいると思うそうで、家に入ることをあきらめると思う。

三つ目は、泥棒の嫌がるものや弱点を知ることだ。戸締りをしているも、窓を割られて入られるかもしれないと怖く感じる人もいるだろう。でも、泥棒には、嫌がるものがたくさんあるそうだ。たとえば、音が出るものがある。大きな音が出ると周りの人に気付かれてしまうからだ。家の周囲で死角になるところに防犯用の音の出る砂利を敷くといい。また、目立つことが嫌いである。光が出るものや人の目、声をかけられることがあげられる。地域の住人がよく通る場所は、泥棒が入りにくいそうだ。ほかにも時間がかかるのも嫌がる。そのため、犬を飼うなど色々な対策ができる。泥棒には、弱点がたくさんある。その弱点を理解して対策すれば泥棒に入られにくくなる家になると思う。

このように、ちゃんとした知識で対策をすれば、事故や事件にあう確率がぐんと減る。みんなもしっかり対策して、事故や事件にあわないようにしよう。

支えあいで明るい社会

神埼小学校 五年 小野 杏

社会を明るくするためには、全ての人がくらしやすい社会を作ることが大切だ。例えば、さまざまな障がいがある人や、まだ世の中ではあまり知られていないトランスジェンダーの考え方を理解し、幸せにくらせるようにするべきだと思う。

少し前、わたしは両親に、

「トランスジェンダーの人も受け入れるべきだと思う。」

と言った。すると、両親は、

「男は男、女は女。」

「ちゃんとはつきりさせるべき。」

と、あまり理解していない様子だった。わたしは、そのことから、ジェンダーレスはまだあまり受け入れられていないのだと実感した。

その後も、たまに

「女の子なんだから。」

と言われることがあった。わたしは、自分の性別に特に違和感を持つていなかったけれど、

「女の子だから。」という理由は、それほど大切なのかと疑問に思っている。

また、今の時代、小学校にはクラスの友達に発達障がいのある人がいて、その人たちはいじめられたりからかわれたりすることが多いと言った話をよく聞く。このことから、障がいの

ある人は周りの人から理解されにくいことが分かる。しかし、障がいがあるということはいじめられるほど悪いことなのだろうか。わたしは、障がいがあるからといって、いじめられる理由にはならないと思う。

けれど、みんなとちがつてはいけない、周りに合わせる必要が大切だと考える人もいるかもしれない。しかし、本当にそうだろうか。自分も周りもみんな同じ人間。顔も性格も得意なこと、苦手なことも何もかもがそれぞれがうのが人間ではないだろう。トランスジェンダーの人や障がいがある人に対して、たまたま周りとはちがうという理解が、あまり世の中に広まっていないことだけではないだろうか。

人間は、みんなそれぞれがう。だからこそ、受け入れて支えあっていくべきではないだろうか。

このように、だれもが幸せにくらすためには、一人一人を受け入れ、支えあっていくことが大切だ。生きにくいと感じている人が一人でも減れば、笑顔が広がり、社会が明るくなっていくのだと思う。わたしのクラスにもいろいろな友達がいる。これからわたしもいろいろな人の個性をみとめて、友達と関わり、支えあって、だれもが安心してくらせるクラスを作っていききたい。

見てみぬフリの思いやり

神埼小学校 五年 田中 愛佳莉

わたしは、友達を傷つけないためには人が失敗をしてしまっても見てみぬフリをする、「見てみぬフリの思いやり」をすることが大切と考える。

私が一年生の時、授業中にはずかしい思いをしてしまったことがある。それを見ていたみんなの中には、「大丈夫、大丈夫。」と声をかけてくれた子もいた。しかし、私は「逆にみんなに注目されてイヤだなあ。」と思った。また、その場では声をかけず、その後はふつうに接してくれた人もいた。その時、私は「私のことを考えてくれたんだな。」と思った。私は、どういう気持ちで声をかけてくれたかはともかく、何もなかったように接してくれた方が嬉しかった。

「見てみぬフリって、無視ってことでしょう。それこそ友達を傷つけるよ。」と言う人もいると思う。

ただ、かんちがいしないでほしい。見てみぬフリは無視というのではなく、見守ることなのだ。無視は、「知らないフリ」をすることで、見守ることは、相手の気持ちを考えるということだ。ただし、「相手のことを考えて見守る。」時にも注意点がある。その行動は、本当に相手が望んでいるのか、ということだ。相手のことを考えて、「今は、見てみぬフリだな。」という時もあれば、「今は、助けが必要だ。」という時もある。だから、相手のことを考えると、見てみぬフリの思い

やり、つまり見守ることが友達を傷つけない一番の方法の時もある。そうじゃない時もあるのだ。一年生の時の私は、友達がその場では見守ってくれて、その後は何もなかったように接してくれたことが嬉しかった。ただ、見てみぬフリの思いやりだけが全てではないと覚えておいてほしい。

このように、自分がとった言動が相手のためになることもあれば、かえって傷つけてしまうこともある。「見守る」ではなく「無視」になっていないか、それは本当にその人が望んでいるのか、ただの自己満足になっていないか、もう一度よく考えることが大切なのだ。

これから、私は、身近に失敗をしてしまった人がいたら、まず、自分が失敗した時の気持ちを思い出して、相手の表情、言葉、手足の動きなどのその人の出している、いろんな気持ちのサインを見逃さないようにする。そして、「見てみぬフリ」をするのか、助けるのか考えて行動していきたい。

野球とぼくの成長

神埼小学校 六年 松本 琉吹

みなさんはスポーツをしていますか。ぼくは小学校二年生から野球をしています。みんなと声をかけあってがんばって練習しています。

野球を始めて、ぼくはまず、あいさつを教わりました。グラ

ンドに入るときと出るとき。監督やコーチの話が始まるときと終わるとき。毎回、「お願いします」と「ありがとうございます」を必ず言うように教わりました。また、応援してくれる保護者の方や地域の方にも元気に「こんにちは」とあいさつするようにしています。あいさつは、使わせてもらうグラウンド、教えてくださる監督やコーチへの礼儀であるということを、僕は六年生になるにつれて分かってきました。保護者の方や地域の方も応援してくれて、とても嬉しいです。元気にあいさつをしてその気持ちを表したいと思いました。

ぼくたちのチームは試合で勝ったり、負けたりしています。負けていても最後までみんな声をかけあっています。試合の流れが悪くなると下を向きそうになりますが、下級生や仲間「大丈夫、大丈夫」と言われると支えられていると感じます。ぼくは時々ピッチャーをしています、その時はみんなの声が一番になります。外野を守っている時はぼくも大きな声で「大丈夫」と声をかけ支えています。監督から練習の時から声を出すこと、いいプレーをした時にはみんな喜び、失敗した人がいても前向きになる声かけをするよう教わりました。すごく大切なことだと思います。

練習をがんばり、今年は佐賀県代表として全日本学童軟式野球大会に出場することができました。残念ながら全国制覇はできませんでしたが、三回戦まで勝ち進むことができました。一つの目標に対してみんなが進んでいくことができたと思いました。

ぼくは負けたことは悔しいけど、悔いはありません。なぜか

という、野球を通して、体の成長や技術の成長以外に心の成長もできたからです。あいさつをすることや何事にも感謝して取り組むことなど、当たり前前のが当たり前前に行けるようになったと思います。

野球は一人ではできません。チームでプレーをするのももちろん対立もあります。野球を通して、人と関わり、つながることで、ぼく自身も変わることができていると感じます。今から体育大会や修学旅行など、たくさん小学校での思い出を作ることができます。みんなと楽しい時間を過ごしていきたいです。

ぼくはこれからも心も体も成長させていきます。

「いじめ」をなくすために今できること

神埼小学校 六年 貞 包 和 夏

みなさんの学級でいじめはありますか。私の学級でいじめはないと思う。いじめは、時にその人を自殺に追い込んでしまうことがある。私は、このような痛ましいニュースを世の中からなくしていきたいと考える。いじめは毎月のようにニュースになり、なくなることはない。テレビ番組で専門家が意見を出し合っているが、私たち子どもが関心を示さず「自分には関係がない」と他人事としてとらえているからだろう。いろいろな学校で、いじめ防止に関する活動が行われているが、スローガンや標語などの言葉を考えるだけで、実際に防止のために行動し

ている人はどのくらいいるのだろう。私もその一人かもしれない。そこで、私は、自分ができるいじめ対策を三つ考えてみた。

一つ目は、ふだん、みんなとあまりかわらない人にも、声をかけてみることだ。少しずつでも自分から話しかけていけば、その人は孤立することがなく、いじめられる可能性が低くなると考えた。あまり話をしない人に話しかけることは、少し勇気があることだ。私は学級の中で、一人でいる人がいたら、声をかけてみようと思う。

二つ目は、いじめを見かけたら、周りにその事実を広めることだ。友達、親、先生、誰でもいい。見て見ぬふりをするのもいじめていることと同じだ。いじめをしている人は、自分が出ていること、言っていることが、いじめだと思っていない可能性もある。いじめられている人がいることを誰かと共有することで、解決の糸口が見えるかもしれない。一人の力は小さくても「だめだよ」と言える人、思える人を増やすことがその人にとって大きな力になると思う。

三つ目は、学級や学年など、みんなで盛り上がることだ。運動会や修学旅行のような行事でもいいし、自分たちで休み時間に企画をしてもいい。みんなを巻き込んでいくようなきつかけをつくりたい。あまり話したことがない人、気の合わない人と思っていた人でも話してみたり一緒に何かに取り組んでいったりすることで意外な一面に気付くことがある。何かに夢中になることで仲良くなっていくことができると思う。

ほんの「少し」の行動で変わっていくことがある。来年は中

学校に進学する。私は、一人でいる人に「どこの小学校だった？」と積極的に話しかけていきたい。私が、いじめをなくすきつかけをつくっていく。「自分には関係ない」と思わずに行動していくことで、世の中は必ず変わるはずだ。誰もが安心して過ごせるように、自分ができることを実践していく。ほんの少しのことでも、行動すること。このことを心に刻み、中学校生活も楽しんでいきたい。

僕の将来の夢

西郷小学校 五年 江島 悠悟

みなさんは、将来の夢がありますか？僕の夢は、プロ野球選手になることです。小学校三年生の時に、野球選手になることを目標に野球部に入りました。今、僕がプロとして活躍できるように努力していること・意識していることを紹介します。

努力していることは、毎日必ず素振りをすることです。試合が終わった後は、くたくたに疲れていることもあります。そんな日でも、素振りは必ずしています。野球において、素振りは基本中の基本です。素振りを繰り返すことで体の使い方やバットの持ち方などを確認することができます。素振りは地味な練習ですが、それを毎日積み重ねていくことで、試合にはスターティングメンバーとして出場することができました。その時はとても嬉しかったです。

また、意識していることは、大きく分けて三つあります。

一つ目は守備についてです。守備の時にはボールを怖がらずに、体の正面で取ることを意識しています。そうすることで、エラーを防ぐことができます。

二つ目はバッティングについてです。ちゃんと最後までボールを見ること、ボールに対して真っ直ぐにバットを当てることを意識しています。そうすることで、打ったボールの弾道がよくなります。

三つ目は走塁についてです。右足を後ろに引いてすぐに一歩目の左足を出せるようにしています。そうすると、盗塁の数も増え、チャンスを今までより多く作ることができます。

こうしたことを意識しながら練習や試合に取り組んできましたが、それでも後悔していることがあります。そこでその改善点について考えます。悔しかったことは、大事な試合を前にして骨折をしてしまったことです。体育のマット運動の授業の時に左手の付け根をケガしてしまいました。まだ体があたたまる前に、動かしてしまったことが原因だと考えられます。そこでその後からは、準備運動を入念に行うようにしています。また、お風呂上がりに柔軟体操も始めました。

野球の試合中にも後悔していることがたくさんあります。それは、プレー中にエラーをしてしまったときです。あと一アウトとれば優勝というところで、僕がエラーをして負けたことがあります。その時は、もう本当に悔しかったです。何がいけなかったのかを反省し、もう二度とこんな思いをしたくないという思いで練習に取り組んでいます。

みなさんは、将来の夢がありますか？僕の将来の夢はプロ野球選手です。決勝戦でエラーをしたり、緊張しすぎて大事なところで三振をしたりすることもあります。野球は大好きです。これからも、僕の将来の夢に向かって、日々努力していきたいです。

学校と地域のつながり

仁比山小学校 五年 森 陽 菜

私は、学校生活の中でちよつとしたいじめにあったことがあります。最近はありませんが、以前は滑舌が悪いことを馬鹿にされていました。今は練習したこともあり、友達からは言われないようになりました。

私が自信をもって話すことができるようになったきっかけとして、「あいさつ」があります。地域の方がいつも元気よくあいさつをしてくださったからです。佐賀県に引っ越してきて地域の方と関わるが多くなり、私も少しずつ大きな声であいさつすることができるようになりました。そして、あいさつを続けていると、自然と自分の言葉に自信をもてるようになりました。また、帰り道に友達からちよつかいを出されることがいやでした。けれど、地域の方が「ダメだよ」と注意してくれました。私はそのことがとてもうれしかったです。地域の方がいつも見守ってくださっているおかげで、私たちは安心して過ご

すことができます。登下校の見守りをしてくださるのは、地域の方だけではありません。お家の人たちも当番で見守りをしています。学校と地域がつながっているからこそ私たちが安心して登下校することができると思っています。

学校と地域のつながりは他にもあります。それは、学校の地区児童会で地域のことにについて話し合いをすることです。地区の友達とあいさつや放課後の遊び方について反省をすること、学校と地域はどんなようになっていと思っています。私の地区の目標は、「あいさつを大きな声でしよう」です。その目標を達成するために、あいさつをされたら必ずあいさつを返そうと心がけています。地域の方や学校の先生方とあいさつをすること、苦手だったあいさつも少し得意になりました。

このように学校と地域のつながりがあることはとても大切なことだと思います。地域の方があいさつしたり、話しかけたりしたりしてくださると、私のように悲しい気持ちでいる子供が少し楽になるかもしれません。地域とのつながりを続けていけば、あいさつの輪がもっと広がり、これから小学生になる子供たちにも引き継がれていくはずですよ。

さらに、学校と地域がつながっていくことで、学校生活もより良くなると思います。先生だけでなく、地域の方も見守って注意をしてくださるので、いじめなども少なくなっていくと思います。このつながりが続いていくためには、地域の方に学校へ来ていただく機会を増やす必要があると思います。そうすれば、みんなが地域の方をもっと知ることができるし、地域の方に私たちの様子を知ってもらうことができるからです。

これからも私は、地域とのつながりを大切にできるように、まずは自分から元気よくあいさつすることを続けていきたいです。

あいさつの大切さ

仁比山小学校 六年 江 越 莉 史

「行ってきます」

学校へ行く前、遊びに行く時、この言葉を言ってお家を出ていきます。ぼくは必ず大きな声でそう言ってお学校へ向かいます。

去年、ぼくは、あいさつはとても大事だという作文を書きました。本当にその通りだなということが起こりました。

それは三月三十一日。ぼくには二つ年上の兄がいます。その日は朝から母とけんかして兄は何も言わずに野球の試合に行きました。すると、その試合で大たい骨の骨が折れて救急車で大きな病院に運ばれそのまま入院することになったのです。三回の手術をして、家に帰れたのは六月十四日でした。二か月半後のことでした。「行ってきます」を言わなかったから帰ってこれなかったんだよ・・・と兄も母も言っていました。

「行ってきます」は、「行きますが必ず帰ってきます」という言葉を省略した言葉だそうです。江戸時代にすでに「行つて参ります」が使われていたことから、昔は旅をすることや夜道を歩くことも命がけだったので「行つて参ります」と言うこと

で、大切な人に対して「必ず帰ってくる」という誓いを立てていたと考えられています。また送りだす側は「行っていらいっしやい（無事に行って帰っていらいっしやい）」と言うことで、相手の誓いに対して思いを重ねていたのです。

「いつてきます」「いつてらっしやい」は日本語だけの言葉で英語や他の国の言葉に訳すことができないそうです。日本人は昔の人もよく達も相手のことをいかに大事に思っているのか分かりました。

ぼくは、他のあいさつにも意味があるのではないかと思い調べてみました。よく達が普段使っている言葉といえは「ありがとう」です。「ありがとう」は本来「有ること」が「難しい」という意味を持つており、滅多にないことや貴重であることを指します。その後、貴重な出来事に対しての感謝の言葉となり、よく達が普段使う「お礼の言葉」になりました。反対の言葉は「当たり前」だそうです。

そもそも、「あいさつ」という言葉はどこから来たのでしょうか。「あいさつ」は禪を修行しているお坊さん同士が出会ったとき、相手がどのくらい悟りの道を進んでいるか確かめるやり取りを意味する「一挨拶（いちあいいっさつ）」が短くなつて「挨拶」になりました。「一挨拶」は相手が仲間かどうかを確認するためのもので、わたしはあなたの敵ではありません、という意味もあるそうです。

家族だけでなく、地域の人にあいさつすることで、「ぼくはあなたの仲間です。今日も元気に行って帰ってきます。」という意味も込めて、今まで以上にあいさつを大切にしていこうと

思いました。こういった考えの人が増えたら、よりよい社会になるのではないかな、と思います。

好きなことだから

千代田東部小学校 五年 高木 朱 愛

好きなことは何ですか、と聞かれたら、私は迷わずサッカーと答えます。学校の休み時間のほとんどがサッカーをします。ポジションを気にせず、全力で走ってボールを追いかけるのが最高です。

私はサッカーチームに入っています。今の目標は、チームの中心となって活躍できる選手になることです。チームには、試合中全力で走り続けている人、シュート力が強い人、ドリブルがうまい人など、私があこがれる人がいます。そんな人たちと練習をすると、パス回しなどがスムーズにできて、自分もうまくなっている気がします。そして、もっとうまくなりたいという気持ちになります。

あこがれの選手に追いつくために、毎日、自主練習をしています。走り込みやダッシュ、マーカーを使ったパス練習などを行っています。平日は二時間、休みの日は三時間するようにしています。時々、近所の上級生が練習に付き合ってくれます。でも、練習する気分になれないこともあります。練習をさぼると、できていたことができなくなることがあって、その時はく

やしい気持ちになります。そして、毎日の練習を継続することがとても大切だということを思い知らされます。ドリブルで相手をかわすことが、練習の時にはできても、試合ではできないことがよくあります。何回も練習をして、試合で成功できた時はゴールを決めたくらいうれしいです。

私は、サッカーのおかげで、コミュニケーションをとる力がついたと思います。チームのみんなは、シュートが入らなくてもゴール前まで行ったら「ナイスシュート」や「おいしい」などと声を掛け合います。アドバイスをくれる上級生もいます。チームの仲間がいることで、自分のことだけではなく、仲間のことを考えるようになりました。試合中は真剣な表情でプレイしていますが、試合が終わると和やかな雰囲気になります。違う学校の人ともお互いの学校のことや友達のことを話すことができるようになりました。

サッカーをがんばることで、自分自身に練習を継続する力やコミュニケーションの力がついてきたと感じます。大変な練習も好きなことだからがんばることができそうです。自分自身の弱いところも、好きなことだから変えていきたいと思うことができます。みなさんの好きなことは何ですか。好きなことを見つけて続けることで、自分の力をのばしたり、仲間が増えたりして、いいことがたくさんあります。私は、チームで活躍できる選手になることを目標に、これからも大好きなサッカーを続けていきます。

小さな積み重ねが大きな力になる

千代田中部小学校 五年 仁 井 佑 磨

みなさんは、「SDGs」について考えたことがありますか。ぼくは、総合的な学習の時間に「SDGs」について学習しました。この「SDGs」とは、世界で起こっているいろいろな問題を解決、改善し、地球を未来につないでいくためにつくられた十七の目標のことです。ぼくは、その十七の目標のうち、⑭と⑬の二つの目標が心に残ったので紹介します。

一つ目は⑭の「海の豊かさを守ろう」という目標です。今、世界では、魚の捕り過ぎや世界的な健康ブームで魚を食べる人が増え、違法な漁業が増えてきて、十分に利用できる水産資源が減少していると言われています。また、ぼくたちが出すゴミや排水で海が汚れてしまっています。人間が捨てたプラスチックゴミを間違って食べた動物が苦しむ様子を写真で見て、胸が痛くなりました。

実際にぼくたちも学校の近くの直鳥クリーク公園に水質調査に行きました。自分たちの目で見たり、においをかいだり、音を聞いたりしながら、いろいろな感覚を使って環境調査を行いました。実際に調べてみると、今までは気づかなかつたけれど、意外に植物が多かったり、生き物がいたりすることが分かりました。また、水はにごっていて、ごみも少しあって汚れていることに気づきました。この水が海に流れ出ると、海も汚れてしまうのだと思いました。

ぼくは、海の問題がこれ以上悪化しないように、海のエコラベルマークがある魚を買ったり、ゴミを出さないようにマイバッグやマイボトルを持ち歩いたりしたいと思っています。また、ペットボトルは、リサイクルに出すことを心がけていきたいと思っています。

二つ目は、⑬の「気候変動に具体的な対策を」という目標です。今、世界では、熱波や干ばつ、集中豪雨、大型台風など、いろいろな災害が起っています。その影響は、農業や水産業だけではなく、人々の暮らしにも及んでいます。飲み水の確保が難しく苦しむ人々、水害で建物が流されたり命を落としたりして悲しむ人々がたくさん出てきています。この日本も例外ではありません。ぼくは、これ以上気候変動が起きないように、節電や「3R」などを心がけて生活していきたいと思っています。再生可能エネルギーを利用したり、電気自動車を使ったり、いろいろな工夫をして、くらしを変えていきたいと思っています。

今、この地球では、いろいろな環境問題が起きています。これを止めるためにぼくたちも行動していかねばならないと思います。マイバッグを使うこと、節電、節水を心がけることなど、小さなことを積み重ねることが大きな力となり、この問題をくい止めると信じています。

理学療法士になって助けられる人がいる

千代田西部小学校 五年 黒田 紗妃

私は、将来理学療法士になって、病気や事故などで体が不自由な人が、少しでも自由に体を動かすことができるように手助けをしたいと思っています。

なぜ理学療法士になりたいかというと、理由は三つあります。

一つ目は、私のおばあちゃんの手伝いをしたいからです。おばあちゃんは、老人ホームを経営しています。おばあちゃんが一泊お休みの日は、日曜日しかありません。私が理学療法士になって、休みながんばっているおばあちゃんを休ませてあげたいです。

二つ目は、おばあちゃんとおじいちゃんを家でもゆっくりさせて、健康を維持してほしいと思っています。私のお母さんの弟は、事故にあって、体が不自由で、話すこともできません。おばあちゃんとおじいちゃんは、家でも介護をしているので、ゆっくり寝ることもできていません。だから、私が手伝うことができれば、おじいちゃんとおばあちゃんもぐっすり寝ることができ、健康を維持できると思っています。

三つ目は、お父さんのようになりたいからです。私のお父さんは、理学療法士としておばあちゃんが経営している老人ホームで働いています。お父さんがマッサージを施した利用者さんが、「少し良くなったよ」「だいぶ良くなったよ」「ありがとう

う」と言っているのを聞いて「すごいな、私も理学療法士が介護福祉士になって、利用者さんを楽にしたり嬉しそうな顔にしてあげたりしたい」と思いました。そんな時に、介護福祉士と理学療法士の体験ができるイベントに参加しました。両方の体験をして、やっぱり理学療法士になりたいという気持ちが強くなりました。

インターネットで調べてみると、「理学療法士は、国家試験に合格して初めて仕事ができる国家資格」ということが分かりました。受験資格を得るためには、一定の条件をクリアしなければならぬそうです。だから、今のうちからできる数学や生物、物理、英語を特に力を入れて頑張りたいと思っています。そして、何よりも理学療法士は利用者さんや患者さんと触れ合う職業なので、安心してもらえるよう、勉強だけでなく、人とのコミュニケーションについても学んでいきたいです。

一步でも理学療法士に近づきたいし、おばあちゃんとおじいちゃんを休ませてあげたいので、学校だけではなくて毎日家でも勉強をがんばりたいです。家族のみんなを喜ばせたいです。体が不自由な人を一人でも多く笑顔にします。

修学旅行を終えて

千代田西部小学校 六年 中 島 桜 心

私は、十月十七日、十八日に行った長崎への修学旅行で平和の大切さやグループ活動での協力の大切さなど、多くのことを学びました。そこで学んだこと、感じたことが四つあります。

一つ目は、長崎県営野球場であった八木道子さんの講話です。私は、八木道子さんの講話を聞いて、原子爆弾や当時の様子など初めて知ったことがたくさんありました。原子爆弾は、一万メートルも離れた空から人の手によって投下され、一瞬にして約七万人もの人々の命をうばったそうです。当時新聞配達をされていた谷口さんは、後ろから爆風がきて、背中が皮ふが真っ赤になって約二年から三年はうつぶせしかできなかったそうです。谷口さんの写真があつてとてもこわかったです。原子爆弾が落とされた近くにいた人は、一瞬にして炭になったそうです。八木道子さんが言われていた「十一時三分をむかえられない人がたくさんいた」という言葉がとくに心に残りました。

二つ目は、原爆資料館です。原爆資料館の最初の方に十一時二分で止まった時計がありました。それだけでも戦争のおそろしさが伝わってきました。原爆資料館には、他にも原爆が落ちたときに着ていたと思われる服などもかざられていました。かわらなどもさわることができました。シアタールームで見たビデオがとてもこわくて泣きそうになりました。原爆が落ちたときの人たちの様子がビデオになっていました。皮ふがたれてい

たり、体が真っ赤になっていたり、つぶされていたりしている人がいて、絵だったけどとてもこわかったです。実際に見たらと思うと「ゾッ」としました。

三つ目は、山里小学校です。山里小学校は今も実際に使われていました。山里小学校にあった防空ごうは、思ったより中が広くてびっくりしました。だけど、土でつくられていたから爆弾などにたえられないのかなと思いました。資料館もあって当時の学校の写真などがありました。

四つ目は、グループ活動です。私のグループは、山王神社に行くまでに少し迷子になったりしたので、人に聞いたり、地図をみたりしてたどり着きました。だから私も人に何かを聞かれたり、たずねられたりした時は、役に立てるように頑張りたいです。

私は、修学旅行を通して、平和の大切さ、戦争のおそろしさなどたくさんを学びました。まだ戦争があっている国もあるし、戦争で苦しんでいる人がいるから、学校での争いごとなどもなくしていきたいなと思いました。そして、長崎で学んだことを下級生や地域の方などいろいろな人に伝えていきたいです。

子どもと大人の相互理解

脊振中学校 二年 永石 千洋

私は今十四歳で、まだ自分は大人ではないと思っています。なぜなら、いろいろな責任を法的に問われなかったり、親に養ってもらったりしているかである。大人に対して、私が抱いているイメージは、いろいろな面で自立していたり、配慮のある行動ができていたりする人、つまり、子どもの先にある成熟した人だ。子どもというと、大人の対義語のように捉えがちだが、それは違うと思う。子どもは大人になるまでの過程の段階であり、子どもの時があつたから大人になったのだ。

大人は、子どもだからできないと決めつけたり、逆に子どもなんだからこれをしなさいなど言ったりして、都合よく勝手に「子ども」という言葉を使いがちだ。それを聞いたたりすると、私は違和感を覚える。例えば、私が経験したこととしては、ある日問題を解いていた時、いろいろな解き方がある中で、私なりの解き方を大人に伝えると、そのやり方はまだならっていないという理由で却下され、教科書どおりの解き方で解くように言われたりした。私の教科書通りではない解き方を、「すごいね」とほめて認めてくれる大人にも出会ったが、残念ながらそれは少数だった。もちろん、年齢や学年にふさわしい理解の仕方、解き方がある程度定められているのは知っているのだが、だからといって、生徒の習熟の度合いや興味・関心に幅がある状況なのであれば、学習のアプローチを画一化し

なくてもよいのではないかと私は思う。もう一つ例を挙げる
と、幼少期に絵を描いたときにおいても、自分らしく自由に描
いたら、大人にもっと子どもらしいのびのびとした枠にとどま
らないような描き方を求められたりした。大人は、子どもに自
分たちが決めつけた「子どもらしさ」を押し付けがちだと私は
思う。

また、今の子どもが置かれている環境は、大人が子どもだっ
た頃と異なり、以前よりも目まぐるしいスピードで変化し続け
ている。例えば、SNSや動画サイトなど、新しい情報に触れ
られる機会が多くなっていることは、そこから得られる新しい
知識を吸収できる機会と、前向きにとらえることができるので
はないか。SNSや動画サイトは子どもに悪を与えるだけのも
のと決めつけず、今の子どもたちがどう接しているかを一緒に
使って試してみるのも歩みよりの一步となり、子どもとの接し
方についての気づきや発見につながるのではないかと思った。

大人には、もっと子どもが日頃感じていること、思っている
ことに耳を傾けて、子どもの立場に立って自分のことのように
考え、寄り添ってほしい。なぜなら、どんな大人もみんな昔は
子どもだったのだから。子どもころの自分を思い出し、目の前
の子どもの言っていることや、やっていることに興味をもって
接することができれば、子どもと対等に話すことは可能だと思
う。それを実現させるための方法としては、他にも子どもの側
から大人に気軽に自分の気持ちを伝えることができる雰囲気作
りも大事だ。このことをテーマにして子どもと大人がお互いの
思いを話す機会をうまく設けられたら、親子の間の距離がより

縮まり、年齢は関係なく良い人間関係が築けると思う。

「私たちにできる依存症予防」

神崎中学校 一年 野 口 千 晴

みなさんは「依存症」という言葉を知っていますか。依存症
というのは、特定の何かに心を奪われ、「やめたくても、やめ
られない」状態になることです。依存症になってしまったら、
依存対象のことを大事にしすぎることで、自分の家族の生活に
不都合が生じてしまいます。近年ではその依存症の患者が増加
しており、社会的な問題となってしまうのです。「そんな
深刻な問題なのであれば、いつか必ず私たちの手で止めなけ
ればならない。」そう私は考えて、依存症を少しでも改善する
ために私たちにもできることを考えてみました。

私たちの身近にあり、依存する可能性が高いもの、それは、
スマートフォンやゲームだと思います。そのスマートフォンや
ゲームの依存症に対する私が考えた対策・改善策の一つ目は
「一日のスマートフォンやゲームの利用時間を見直してみる」
ことです。見直すだけでは効果はありませんが、今の自分のス
マートフォンやゲームの利用時間の状況を知ること対策を考
えられるはずです。例えば、利用時間が少なかった人は、これ
以上多くならないように意識することができます。逆に利用時
間が多かった人は、少なくするために利用時間の中でけずれる

時間を考えてみて、実際に減らすことができるのです。このように、まずは自分のスマートフォンやゲームの利用時間を見直してみて、自分に合った対策を立て、実行する事が大切だと思います。

二つ目は、「自分が無理していると思った時に、一人で抱え込まない」ことです。私たちは生きていく中でたくさん悩みを抱えます。その悩みを一人で解決しようとして、無理をしてしまうこともあるはずです。そんな時に物に頼って依存してしまったり、いろいろな事があるのです。けれども、いろいろな事で悩んで無理してしまったり、一人で抱えたり、物に頼ったりするのは、家族や友達などの身近な人に頼る事が一番いいと思います。そうすることで本人の気持ちも楽になるし、依存症になってしまったり、周りの人に迷惑をかけずにすむのです。みなさんも何か、一人で解決するのが難しい悩みがあったら、自分も周りの人も守るためにもだれか周りの人に相談してみてください。

三つ目は「周りの人の変化に気付いた時に声をかける」ことです。これは、「自分が依存症になることを防ぐ」ということではなく、「周りの人が依存症になることを防ぐ」ということです。例えば、周りに疲れたり、無理していたりする人がいたら、相談にのってあげるとよいでしょう。相手も少し話を聞いてもらえるだけでも、ずっと気持ちが楽になるはずです。だから、周りに困っているような人を見かけた時は声をかけてあげてください。そうすることで、その人を依存症から守ってあげることができるのです。

このように、依存症を対策・改善するには自分一人でなんとかしようと考えるのではなく、周りの人に頼ることも大切なのだと思います。悩みを抱えて無理をしてしまうような事はたくさんあり、それはみんな同じなのです。ですから、もし一人で耐えられないような事があれば、周りの人に話したり、逆に話を聞いてあげたりしてください。そのように行動できる人が増えていくことによって、依存症になる人を減らすことができるのです。

どうしていじめは起こるのか

神崎中学校 一年 渡 邊 璃 乃

私の中学校はいじめがありません。ですが最近いじめに関するニュースが増えてきています。一九八〇年代半ば以降、いじめは、深刻な社会問題となっています。どうして、いじめは起きてしまうのでしょうか。いじめには、「いじめられる生徒」と「いじめられる生徒」と「観衆」と「傍観者」という四層構造があります。観衆とは直接手は出さないけど、面白がったりして見ている生徒のことを言います。傍観者とは次のターゲットになりたくないという感情から、見て見ぬふりをする生徒を言います。一つ目はいじめの側の要因です。例えば、虐待されている、ストレスが溜まっている、気に食わないことがあるなどといった要因があります。二つ目は環境の要因です。例えば、

気づかない、教師が注意をしないなどがあります。いじめは自分と違うことなどからも起こります。私は自分と違うからと言って、いじめをしていい理由にはならないと思います。いじめの怖いところは、いじめられた側は心に傷がつき、トラウマになってしまふことがあるのに、いじめた側は覚えていないことが多いことです。いじめた自覚がないこともあるそうです。もう一つの怖いところは、学校が対応をしないことです。いじめ被害者や、周りからうったえられても、どちらも悪いなどの対応をしたり、無かったことにしたりすることもあります。その結果、いじめがもつとひどくなったり、被害者が自死・自殺をしてしまったりする可能性があります。これまで悲惨ないじめが後を絶たず、被害が蔓延し続けてきたことから、二〇一三年に、「いじめ防止対策推進法」が施行されました。ですが、このような法律の内容を十分に理解せず、いまだに旧来型の物の考え方でいじめを判断しようとする教師が少なくないのです。

それでは、いじめを防ぐためにはどうすればいいのでしょうか。一つ目は、子どもを認めることです。加害者がいじめを起こす理由は、家庭のストレスの発散から行うこともあり、中には、誰かに認められたい、褒めてもらいたいという自尊心からくるものもあります。

子どもが加害者にならないようにするためには、子どもを認め、必要な心の栄養を十分に与えてあげることが大切です。二つ目は、相手の気持ちを考えて行動することです。自分の言いたいことやしたいことをするのではなく、まず、相手がどう思

うのか、どんな気持ちになるのかを考えて行動することが大切です。三つ目は、いじめを見過ごさないことです。先生に言ったら自分がいじめのターゲットにされそうだから、とか、関わりたくないからなどという理由で見過ごしてしまうと、いじめがひどくなったり、被害者が自殺してしまったりするかもしれません。だから、いじめは見過ごさず、被害者の見方になってあげることが大切です。四つ目は、いじめは絶対にしてはいけないという意識をもつことです。いじめは犯罪です。未成年だから捕まりませんが、絶対にしてはいけないことです。今、とてもいじめが増えています。自分がいじめの被害者、加害者にならないように、人の気持ちが分かる人になりたいです。

私の夢

神崎中学校 一年 川原 早 稀

私は小説家になりたいと思っています。なぜかというところ、小さい頃から本を読むのが好きだったからです。家の近くに図書館があり、よく祖父と一緒に رفتたり、一人で行って本を借りたり返したりしていました。たくさん本が並ぶ図書館は、私にとってわくわくする場所でした。毎日、同じような本ではなく、たまには違う本も挑戦してみようかなという、知らない世界に飛び込むのがとても楽しいなと感じました。

最初は絵本が好きで読んでいると、年齢を重ねるにつれて、

だんだん文字の多い本や物語が好きになっていました。そして、たくさん本を読むうちに自分でも物語を考えたり書いたり、登場人物の気持ちができるようになってきました。それがきっかけなのか、小説で人物の気持ちがなんとなく分かり、物語を作るのが好きになっていきました。小学校の国語の授業で「登場人物の気持ちを感じ取り、考えてみよう」ということがあった場合は、すぐに気持ちを読み取ることができました。その時、先生に「とてもいい考えだね。」とほめられたことがすごく嬉しかったです。それから、自分でオリジナルの物語をノートに書くことができました。

それでも、小説家になりたいなんて誰にも言わずに過ごしていました。友達や親などに「小説家になれるわけない。無理だよ。」と夢をばかにされそうだと感じたからです。

しかし、去年の秋のことです。本屋で買った本が、今まで読んで本よりも胸を打たれました。その本を読んでいると、「自分もこのような風に誰かの胸を打つ物語を書いてみたい」そう思いました。もちろん、小説家になるのはとても簡単ではないと思います。私の文はまだまだで、もっと練習しなければいけません。

先日、親友に小説家になりたいという話を初めてしました。勇気を出して打ち明けた時、彼女は私の話をちゃんと聞いてくれてこう言いました。「早稲ならなれるよ。文を書くのが上手なんだし。」と笑顔で言ってくれたその言葉を聞いて、安心と自信につながりました。彼女が私を信じてくれていると分かったことで、私は自分の夢を追いかけてもいいんだ、そして応援

してくれる人がいるんだと強く感じました。

それからは、自分の夢にもっと素直になれました。小説の物語を考えることが楽しいし、誰かが私の物語を読んで共感を持ってくれることを想像すると胸が高鳴ります。

まだ、物語を考えたいものを見せる勇気はありませんが、前に比べては見せてもいいかなと思っている段階ではあります。だけど、小説を出したとき一番に見てほしいのは自信につながる言葉をくれた信頼のできる彼女がいいなと思います。

私は、物語を少しずつでも書いてみようと思いました。

これからも、たくさん本を読んで書き方を学びながら、自分の物語を書き続けていきたいです。本屋さんの本棚に、自分の名前が書かれた本が並ぶ日を夢にみて、何があっても小説家になる強い気持ちを忘れずに挑戦し続けていきたいです。そして、彼女がいつか私の本を手にとった時、「本屋で早稲の小説を見つけた。やっぱり小説家になれたね。」と毎回のよう言ってくれる日を楽しみにしています。そう思うと、これからの道が少し明るく見えてくる気がします。

私は小説家になりたいと思います。

「こんな神崎市にできたらいいな」

神崎中学校 一年 嘉村 篤

僕ができたらいいなと思う神崎市は、ごみのポイ捨てのない神崎市です。現状、僕の地区では雑草にコアラやファンタの空き缶やペットボトルが、用水路にはタバコのごみが捨てられているのを見ます。そういうごみを見て僕は、みんながルールやマナーを守って暮らしているのに、やめてほしいなと思います。

ポイ捨てされているごみが自然に与える影響は、主に海洋汚染などです、ポイ捨てされたごみは、やがて川や海に流出し、海洋ごみとなってしまいます。特にプラスチックごみは微生物の力では分解されにくく、いつまでもずっと海中に取り残され続けるそうです。そして、プラスチックごみが小さな破片になった「マイクロプラスチック」を、魚や貝などがエサと間違えて食べてしまう事も確認されています。ただゴミ箱に捨てに行くのが面倒くさいという理由で何気なく捨てたごみが地球環境問題の原因になってしまいます。現在、世界全体で年間数百万トンを超えるプラスチックごみが海洋に流出すると言われており、海洋プラスチックごみによる地球規模での海洋汚染が生態系等に悪影響を及ぼしています。身の回りのプラスチックごみをポイ捨てせず正しく処理することは、プラスチックごみの流出を防ぐためにも必要不可欠です。自分たちが住んでいるこの地球を守るためにもごみのポイ捨てはやめなさいといけま

せん。さらにプラスチックごみが与える影響は魚などの海の生き物だけではなく、マイクロプラスチックが体内に入り、肺炎症、めまい、頭痛、喘息、がんなどの症状を引き起こす可能性があります。

僕の住んでいる地区では、「クリーン作戦」というごみ拾いのボランティアがたまに休みの日に行われています。それをやってみて、はじめは空だったごみ袋が一時間で、タバコの吸い殻、空き缶、ペットボトル、お菓子の袋、レジ袋などのごみで袋はばんばんに膨らみ、改めて捨てられているごみの多さを知りました。さらに、茶色にさびて壊れている自転車まで捨てられていました。

ごみをポイ捨てすることは法律でも禁止されています。廃棄物の処理及び清掃に関する法律で、第十六条「何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない。」第二十五条第十四号第十六条の規定に違反して、廃棄物を捨ては者に罰則として5年以下の懲役もしくは一千万円以下の罰金、またはこれを併科されます。このように、ただごみをポイ捨てしただけでも言えないくらいにポイ捨てはやってはいけないことなのです。

このようにごみを捨ててはいけなさと分かりましたが、捨ててあるごみをボランティアで拾う人もいます。今、政界で大活躍中の大谷翔平選手も、北海道日本ハムファイターズというチームでプロになった時から、自分からすすんでごみを拾っていて、ごみを拾うと同時に良い運も拾っていると言っていました。僕も自分からごみを拾えるようになりたいです。

ごみをポイ捨てしないこと、ごみを拾うことは自分たちのた

めにも、地球の環境のためにもとても大切なことだと分かりました。そして、持続可能な開発目標（SDGs）にも関係しています。僕が大人になるまでに、神埼市をこみのポイ捨てのない市にできたらいいと思います。

「いじめについて」

神埼中学校 二年 寺 崎 莉 来

いじめは、学校や社会において深刻な問題であり、その影響は被害者の心と体に長期的な傷を残します。いじめは単なる「悪ふざけ」や「遊び」とは異なり、加害者の意図的な攻撃によって成り立っています。これにより、被害者は自己肯定感を失い、精神的な苦痛を強いられることが多いのです。

まず、いじめの定義を明確にすることが重要です。いじめとは、特定の人に対して繰り返し行われる攻撃的な行動のことで、身体的、精神的、社会的な形態があります。身体的な暴力はもちろん、言葉による侮辱や無視、さらにはSNSを通じたサイバーいじめも含まれます。これらはすべて、被害者に対して大きな心理的負担を与えます。

いじめが発生する背景には、いくつかの要因があります。まず、学校や家庭における教育環境が挙げられます。親や教師が暴力や差別を容認するような態度を示すと、子どもたちもそれを真似る可能性があります。また、競争が激しい環境や、集団

内での役割が固定化されることで、弱者が狙われやすくなります。このような環境は、いじめを助長する要因となります。

いじめの影響は深刻で、被害者は精神的なトラウマを抱えることが多いです。うつ病や不安障害などの精神的な問題が生じることはもちろん自己評価の低下や対人関係の悪化も見られます。また、学業成績の低下や登校拒否といった問題にもつながります。これらの影響は、長期にわたり続くことがあり、被害者の人生に大きな影響を及ぼします。

では、いじめを防ぐためにはどのような対策が必要でしょうか。まず、教育機関がいじめの実態を把握し、早期に介入することが求められます。定期的なアンケートや観察を通じて、いじめの兆候を見逃さないようにすることが重要です。また、教師や学校スタッフに対する研修を行い、いじめに対する理解を深めることも必要です。

次に、被害者を守るための具体的な支援が求められます。相談窓口の設置や、カウンセリングサービスの充実は、その一助となるでしょう。被害者が安心して話せる環境を提供することで、早期の対処が可能になります。また、友人や同級生も重要な役割を果たします。周囲がいじめを見て見ぬふりをするのではなく、声を上げることが大切です。勇気をもって行動すること、いじめを減少させることができます。

さらに、加害者へのアプローチも重要です。単に罰を与えるのではなく、彼らがなぜそのような行動を取ったのか理解し、問題の根本的な解決を目指すことが大切です。教育やカウンセリングを通じて、他者を思いやる心を育むことが必要です。

いじめは一人では解決できない問題です。学校、家庭、地域社会が協力し合い、包括的な対策を講じることが求められます。すべての子どもが安心して過ごせる環境を作るために、大人たちが責任をもって行動することが重要です。未来を担う子どもたちが、いじめのない明るい社会で育つことができるよう、みんなで協力していきましょう。

夢を叶えて気づいたこと

神崎中学校 二年 佐々木 煌

僕には、たくさん夢がある。消防士になりたいなどの「将来の夢」ではなく、「こういうことがしたい」「やってみたい」「叶えてみたい」などの夢だ。例えば、僕は食べ物が好きなので、「からあげを一キログラム作って食べる」という夢や、「ドーナツを好きなだけ買って食べる」という夢、「友達とポテトパーティーをする」という夢などがある。全部食べ物関係だし、内容が子供っぽいと思うかもしれないが、頭の中で想像してみてもいい。「確かに夢があるし、楽しそう」と思うだろう。

さっき挙げたような、食べ物関係の夢を、いくつか僕は叶えてみたことがある。一つ目は、巨大なパフェを作ったことだ。友達とお菓子を大量に買い、生クリームとチョコソースをたくさんかけ、甘々な巨大パフェを作った。とても面白くて、楽し

かった。おいしかったので、友達全員がたくさん食べた。だから、僕は腹を壊し、友達も夜ご飯が食べられなくなった。

この「巨大なパフェを作る」という夢は叶えたことで、知識をつけることができた。生クリームはあまり入れすぎない方がいいことや、コーンフレークやマッシュマロを冷凍すると食感がそこなわれる事、甘いものを食べすぎると腹を壊す事などは、満足するだけではなく、知識をつけることができるものと知った。

二つ目は、炊飯器でハンバーグを作ったことだ。言葉の通り、炊飯器にハンバーグのタネを入れて、炊いて作った。すごく大きくできたし、おいしくできたので、うれしかった。真ん中にはチーズを入れたので、中から滝のように流れ出て、見た目もうまかった。更に、肉から出てきた脂と調味料をまぜ、ソースを作った。これもうまかった、おいしくできた。

この「炊飯器でハンバーグを作る」という夢は、結果をみれば成功しているように見えるが、実は作る過程でいくつか失敗している。炊いた時間が短すぎて生焼けだったり、ソースに加えた脂の量が多すぎて脂っぽくなったり、チーズの量はどのくらいかわからなくなったりなどの失敗をした。けれど、あきらめずカバーをしようと粘った。炊く時間を長くして、完全に中に火を通すことができ、調味料を足すことで調和して、おいしいソースを作ることができ、ネットでチーズの量を調べ、丁度いい量を知ることができた。これで僕は、あきらめない大切さと、計画を立てる重要性和、失敗した時の立ち回りを知ること

ができた。また、この夢を叶えている中で、成長することができた。

このように、夢を叶えることは、知識をつけること、計画を立てる重要性、失敗した時の立ち回り、夢を叶えている中の成長を学ぶことができる。

これ以外にも、夢を叶えて学べることはいくつかある。まずは目標設定とモチベーションだ。夢をもつことで、具体的な目標を設定することができる。目標があると、日々の行動に意味が生まれ、モチベーションを維持しやすくなる。現に、今の僕は、「次はこの夢を叶えてみようかな」と目標を立て、「それをするにはこうすればいいかな」と設定し、「楽しかったな」とモチベーションが上がる。

次に、幸福感の向上だ。夢を叶えることは、人生における充実感や満足感を高める。達成感を得ることで、幸福感が増し、ポジティブな感情が生まれる。

このように、夢を叶えることには、いいことがたくさんある。落ちこんでいたり、日常がつまらなく感じていたりする人は、一回自分のやりたいことを行動に移し、全力で楽しんでほしい。こうすることで、生きる意味や希望を見出せ、人生を楽しむことができる。

夢を追うために

神崎中学校 二年 野 中 碧 真

私の夢は、医師になることだ。だが、丁度一年前までは、獣医師になりたいと思っていた。私の夢が変化したきっかけとなったのはテレビなどのメディアを通して様々な人を知り、尊敬や憧れを抱いたためである。また、世界中で病気になり苦しんでいる人が数多くいるという現状をふまえて、そのような人を一人でも多く救いたいと思ったためである。こうして、自分の「夢」や将来のことについて考えていると、幾つかの疑問が浮かんできた。真っ先に浮かんできたのは夢を追うために大切に必要なこととは、どのようなものかということだ。

私は、夢を追うために大切であり必要なことは、「努力」をすることだと考える。三大国家資格に一発で合格している人は血のにじむような努力を継続していた。夢の種類に関わらず、どんな夢に対しても努力をすることは、必要になってくると思う。もし、夢へと向けて必要な努力を継続できれば、大多数の人は夢を叶えることができるだろう。努力を継続してきた。しかし、夢を叶えることができなかった。このような人もいるだろう。私は、そのような人たちは落ちこんだり、悲しんだりする必要はないと思う。夢へと向かって、努力を継続してきた、その姿勢こそが大切であり、とても良い経験になると思うからだ。その経験は、本気で目指していてそこでしか得られない、唯一無二で一生ものの経験となるはずだ。

ここまで「努力」が大切であることを述べてきたが、私は努力をする上で、最も大切なことは、「継続」することだと考えた。それは決して簡単なことではないと思う。なぜなら、努力を継続するためには、習慣化をする必要があるからだ。習慣化するためには、少しの期間、自分のしたいことを我慢しなければならぬ。少しだけの期間であるが、成長を重ね、できることが増えてくるため、学生の間は成長すればするほど難しくなる。そのため、夢が叶うかどうかはさておき、努力を継続することを諦め、挫折してしまう人は少なくはないだろう。継続的な努力を諦めてしまったが、夢が叶う人もいるだろう。私はそこに価値はあまりないと思う。努力あつてこそ、それを叶えたときの喜びがあると考えるためだ。夢を叶えるための最大の近道とは努力を継続的に行うことだ。努力をすればするほど、夢へと近づきたい自分への将来像を見通すことができるのである。そのために、目標を掲げることがとても有効な手段だと思う。夢へと向けてやる気を向上させたり、努力を重ねるたびに達成感を味わえたり、夢を叶えるための道筋をはっきりさせてくれるなどの恩恵を与えてくれるためだ。

私は医師になるために、自分なりに現時点でできる最大の努力を行っている。将来、医師となって、人体のメカニズムを解き明かし、苦しむ人がいなくなる世の中にしていきたい。皆さんは、将来こうなりたいと思える夢があるだろうか。夢をもっている人は、その夢へと向けて自分なりに全力となれているだろうか。私は、誰もが夢をもつことができ、夢に向けて平等に努力できる世の中になってほしい。夢を追うために、全力で挑

戦できる世の中に。

守り守られる神崎市

神崎中学校 二年 千 住 真奈香

「あなたが住みたい神崎市はどんな市ですか？」と聞かれたら「高齢者に優しい市です」と私は答えます。なぜなら私が小さい頃から見守ってくれたのが、おじいちゃん、おばあちゃんたちだったからです。私の近所にはそんな方々がたくさんいらっしゃると思います。だからこそ高齢者の住みやすい神崎市がいいと思いました。

神崎市議会だよりの題名募集のとき、私は市議と町のつながりを意識し、「あやとり」と名付けました。うれしいことに「あやとり」は採用され、市議の方々とお話させていただくこととなりました。その際、市議の方から「神崎の良いと思うところは？」という質問をされました。答えは最初に述べた「高齢者」とつながりが深い町というものです。隣に住んでいたおじいさんは私の自転車の練習をずっと見ていてくれたし、おばあちゃんは回覧板を届けるといつも笑顔でお菓子をくれます。そんな神崎が好きだと答えました。そして私はそんな神崎市に住みたいと思います。近年、高齢者増加により様々な商業施設にバリアフリーが見られてきました。そんな中、気になるのはアスファルトの崩れです。神崎市は国道以外の奥まった道

路で凹凸が激しい場所があります。高齢者の方々が夕方に散歩をされている姿をよく見かけます。歩いているのは国道ではなく、近所の脇道や住宅街です。シルバーカーを押す方はなおさらデコボコした道は歩きにくいと思います。そのため国道以外に目を向けた道路工事が必要だと感じています。

また、高齢者に優しい町づくりに必要なのは工事やバリアフリーだけではなく、人々の気持ちだと思います。私が小学生のときには、見守り隊のおじいちゃんおばあちゃんが近所にいてくださいました。中学生になった今でも話しかけてくれて成長を喜んでくれます。そんな方々に私はとても感謝をしています。小学校で、お世話になった人にお手紙を書くという取り組みがありました。そのとき私は登下校で見守ってくれるおばあちゃんに手紙を書きました。シュンくんという犬いつも見守ってくれたおばあちゃん、一年生のときから仲良くしてくれました。ドキドキしながら手紙を渡すとおばあちゃんはすごく喜んでくれて宝物と言ってくれました。そこで私は感謝を伝える必要性を感じたのです。気持ちを伝えることがすごく大切だと思います。

このように私たち学生は町全体で守られてきました。だからこそ高齢者の方も町全体で守るべきではないでしょうか。神崎市は高齢者が多いからこそ、環境整備や気持ちを伝える大切さを市民全員が理解して取り組んでいきたいものです。

高齢者だけでなく、みんなが温かい神崎市。そうなることが私の目標であり、理想です。私も日々の感謝を言葉にして、多くの人に伝えていきます。その感謝の一つ一つが積み重なって

素敵な神崎市になるはず。神崎市に住んでいる人みんなです。まずは感謝の気持ちを伝えることから始めてみませんか？

わたしの願い

神崎中学校 二年 原 田 桃 花

私の願いは、SNSによって傷ついてしまう人が減少することです。

このような考えを持ったきっかけは、三つあります。

一つ目は、中学生になりスマートフォンやタブレットなどの機械を使ってSNSに触れる機会が増えたことです。小学生の頃は、SNSを使うことができる機械を持っていなかったことから、テレビのニュース番組などからしかSNS被害について知る機会がなかったため、あまり知りませんでした。しかし、スマートフォンを持ってSNSを使い始めたことで、SNSが身近になり今まで思っていた被害の規模とは明らかに違ったことから、とても驚きました。

二つ目は、有名人に対しての誹謗中傷を見かけたことです。どんな人にも、好きな俳優やアーティスト、インフルエンサーがいると思います。私にも好きな芸能人やアーティストがたくさんいます。このような有名人の方々の中にも誹謗中傷を受けたことがある人があるということに、とても心が痛みました。有名人の方々は、実際にどんな被害を受けたのか調べてみる

三つ目は、SNSを使っているというニュースを見かけたことです。学校の授業でもSNSの使い方を学習する機会が増えてきましたが、必ずSNSで起こってしまっただけの話です。学校ではいろいろな人のいる中で友達と会話をすると思います。しかし、SNSを使って会話をするときは、一人一人トークルームが存在し、その中でしている会話は、会話をしている人たちしか聞くことができせん。そのため、SNSで仲間はずれにしたり、悪口を言ったりして、いじめに発展しているのではないかと思います。

だと思えます。SNSを正しく、発した言葉を見た人たちはどんな気持ちになるのか考えながら使う人が増え、被害を受けて傷ついてしまう人が減ることを願っています。

千代田中学校 一年 山田 礼旺

私の祖父は毎朝五時に起きて、魚市場に魚の仕入れに行っています。仕事が大好きで、自分の仕事に誇りをもっている格好良い祖父です。私は、祖父が魚を捌いている姿を見るのが大好きです。しかし、そんな祖父は今、癌という病氣と闘っています。仕事に誇りをもち美味しい魚をみんなに届けるため、祖父は「死ぬまで仕事を続ける」という強い信念のもと頑張っているのです。そんな強い祖父を私はとても尊敬しています。

父は、いつも夜遅くまで家族のために働いてくれています。

父は、自分のことよりも家族のことを最優先にしてくれます。私が部活などで疲れたときは、自分も仕事で疲れているにも関わらず、私の足や腰、頭などをマッサージしてくれるのです。また、家族を笑わせようと面白いことを言ったり雰囲気明るくしてくれたりといつも家族のことを考えてくれる頼りになる優しい人です。

母は、幼稚園教諭という仕事をしています。小さい子どもを相手にしている母は、いつも些細な事に気づいたり、一瞬で周りを笑顔にしたりといつも驚かされます。

高校生の兄は、進学校に通っています。頭が良く小学校の時から、私たち弟に勉強を教えてくださいます。どんな質問にも答えることができ、答えられない問題はない私にとって「スパーお兄ちゃん」です。しかし、そんな兄は、最初から「スパーお兄ちゃん」だったわけではなく、毎日の努力が作り上げられたものだとは私は知っています。兄には将来の夢があり、その夢の実現のために毎日何時間も勉強を続けるという大変な努力をしているのです。

中学生の兄は、とても運動神経が良いです。幼稚園の頃から実力を発揮し、いろいろなスポーツで賞を獲っています。そんな兄は、中学校に入学すると陸上で県一位になりました。全国大会に出場した兄は、全国のレベルを知り、新たな目標ができたようでした。この兄も常に前向きに高い目標を掲げて努力をしています。

こんな素敵な家族に囲まれ、支えられて私はとても幸せを感じています。しかし、この素敵な家族たちに対して、私はなに

か誇れるものがあるのかと考えてみましたが、何一つ思い当たることがないことに気がきました。何かに一生懸命取り組んだこともなかったように思い、なんだか悲しく思っていました。

しかし、そんな私にも頑張りたいと思うことが見つかったのです。それは、テニスです。

中学校に入学し、ソフトテニス部に入部しました。このスポーツに、私はとても魅了され、毎日部活動に参加することが楽しみになりました。なんとなく、周りの優しさの中でのんびり生活してきた私が、こんなに熱中し、一生懸命取り組みたいと思ったことは初めてです。まだまだ、自慢の家族のように誇れる自分ではないけれど、自分ができることや好きなことに一生懸命取り組み毎日を生活することが家族を安心させられることだと思いました。そしていつか私が家族を支えられる存在になりたいと思います。

私の夢

千代田中学校 一年 副 島 凜

私の将来の夢は、キャビンアテンダントになることです。キャビンアテンダントとは、気病や気象情報の悪化などのトラブルに対応し、乗客の安全を守ることや飛行機の中で乗客に食事や飲み物をサービスしたりする職業のことです。

私がキャビンアテンダントになりたいと思ったきっかけは、九歳の時に家族旅行のため、飛行機に乗ったことがきっかけでした。その時、離陸してまもなく飛行機の中で、耳が激しく痛み、いくら飲み物を飲んでも治まらず、涙が止まらない状態でした。どうしていいかわからず、痛みに耐える私に一人のキャビンアテンダントの方が声をかけてくれました。

「大丈夫ですか。」

その声は、とても優しく、私に寄りそってくれるような声でした。そして心配そうな表情で私を見ると、紙コップいっぱいに入れた飴を差し出してくれたのです。いただいた飴を口の中に入れ、舐めていると痛みは完全に無くなることはありませんでしたが、さっきまで泣くほど辛かった痛みは幾らかましになり、涙も止まっていました。彼女の笑顔と優しさで心がとても楽になりました。

この出来事があったのは、私がまだ幼かったときだったため、彼女が、私のためにしてくれた行為のありがたさについて全く理解していませんでした。しかし、空の旅が好きな私は、あの時のキャビンアテンダントさんの声掛けや飴をくれたこと、心配してくれた表情などから安心することができ、空の旅が好きになったのだと思いました。彼女が、乗客の私のことを第一に考えて行動してくださったことや、困っている人に駆けつけ心配してくださる優しい姿から憧れをもつようになりました。いつか私も人のために親身になって考え行動できる素敵なキャビンアテンダントになることが夢となりました。

キャビンアテンダントに憧れた私は、この仕事について調べ

てみました。すると、たくさんの魅力があることを知りました。それは、いろいろな国を訪れることで、様々な地域の文化に触れることができること。また、いろいろな国の人とコミュニケーションを取ることができることです。いろいろな人とコミュニケーションを取ること、今までは違った価値観に触れることができ、さらに違った価値観に触れることで、新しい考え方を知ることができます。しかし、キャビンアテンダントになるためには、語学力とコミュニケーション能力が必要だということもわかりました。特に英語の力はとても大切です。

私は、あまり英語が得意ではなく、このことを知って少し焦りを感じました。しかし、毎日少しずつでも勉強すると力がつくと聞き、勉強しない日を作らないように努力をしています。そして、私は自分から何か進んで取り組むのではなく、誰かに言われて行動することが多くあります。九歳のときに出会ったキャビンアテンダントさんは、進んで私に声をかけ、行動してくれました。こんな自分を変えるためにも、積極的に自分を変えようと努力することにしました。

私は、バレーボール部に所属しています。つらくて辞めたいと思うこともあります。しかし、辛い時こそ積極的に声を出したり、相手のことを考えて打ちやすいパスを出したり、できることを探して行動していくことこそ大切なことだと思い、努力しています。そして何より自分を変えることはチームを強くすることにもつながることにも気づくことができました。今自分ができる努力をしていくことこそ、自分を成長させキャビンアテンダントの夢をかなえる努力だと信じています。

そしていつか自分の仕事に誇りと責任をもったキャビンアテンダントになり、私が乗る飛行機で家族を旅行に連れていきたいと思っています。

表と裏

千代田中学校 二年 佐野 明花

私は、生徒会長選挙に立候補した。もともと、リーダーという役割にはふさわしいと言えないほど人見知りな私だったが、今思うと、本当に立候補してよかったと思う。

ある日、教室で泣いてしまったことがあった。その時、

「明花がもし、生徒会長に選ばれたとしたら、必ず選ばれなかった人がいる。勝負の世界には、必ず表と裏がある。リーダー的な位置にいる明花が皆の前で泣いたらみんなが気を遣ってしまう。明花は、そういう部分をもう少し大人になっていかなければいけない。」と先生に言われた。

私は、先生のこの言葉の中で、「世界には、表と裏がある」というところが心に残った。先生が言われた「表と裏」は二つ種類があった。

一つ目は、一人の表と裏だ。スポーツの世界で言えば、観衆である私たちは、選手の結果だけを見るが、選手たちは結果がどうであれ、それぞれの選手が日々の練習を積み重ねてきている。私の部活動内でも、明らかに練習を頑張って努力している

人がいるが、彼女の活動歴が短いせいか、彼女のように努力していない様子の別の友達の結果の方がいいということがある。結果にだけ注目するのか、裏側の努力に注目するのか。先生方がよく「結果がすべてではない」と言われるのは、このような出来事を何回も見てこられているからであろう。

二つ目は、全員の表と裏だ。またスポーツの世界で考えてみる。日本代表になり、注目される選手もいるが、もちろん代表に入れない人がいるということだ。私は、バドミントンクラブに所属しているので、バドミントンの日本代表選手以外の選手も知っているが、他の競技ともなると、日本代表を覚えるのでやっとな。

表は、みんなから注目され、見られる立場にある。中枢的な役割のリーダーの言動は、チーム全体の雰囲気に関わる大事なことだ。漫画「忘却バツテリー」の主人公である、要圭は、名門野球チームのキャッチャーとして、チームメイトにはしっかりとした智将としての姿を見せる。リーダーが前向きであれば、チーム全体も前へ進んでいくし、リーダーが沈んでいれば、チーム全体の雰囲気も悪くなってしまうことは間違いない。

勝負の出来事で、勝った側、選挙でいうと選ばれた側が注目されるのは当然だろう。だが、その裏には、必ず負けた側、落ちた側というのが存在する。もし、選挙に選ばれなかったとして、泣いてしまうのはどうだろうか。選ばれた側は、気を遣ってしまうのではないか。もし、選挙で選ばれたとして、声に出して喜ぶのはどうだろうか。その行為は、選ばれなかった側を

配慮しているのだろうか。

日本には、「礼儀」という言葉がある。礼儀を特に重んじている柔道や、剣道などの武道では、相手を敬うことが礼儀とされている。今年開催されたパリオリンピックの柔道では、最後まで礼儀を重んじる選手の姿がとても魅力的に感じた。

私は、先生に言われたことで、表と裏があることを知った。今まで、表にしか注目してこなかった私は、大事なことを見逃してきたのかもしれない。

私が、選挙に選ばれても、選ばれても、前の私より確実に一歩進めているはずだ。私は、人の表だけでなく、裏側まで見て、寄り添えるような人になりたいと思っている。

命を守る行動を

千代田中学校 二年 田 中 希 采

皆さんは、当たり前に過ごしている日常が過ごせなくなることを考えたことがありますか。私は、今までそんな日を想像したことはありませんでした。しかし、今年になってから、時々そのようなことを考えるようになりました。

二〇二四年元旦に起きた能登の大震災に始まり、航空機の事故や、全国各地での大雨や台風被害があつたのがきっかけです。日向灘の地震では、神崎市も揺れました。災害によって、住むところを奪われ、私と同じ中学生が親元を離れ、住んだこ

とがない地域に避難したり、被害にあつて命を落とす方がいたりするニュースを見聞きしました。災害が起きると、一瞬にして当たり前にあつた日常がなくなってしまうと思いました。

線状降水帯や、洪水、竜巻の発生など、全国各地で自然災害が増加していると言われています。私たちが住む神崎市でも、七十年くらい前に、大きな水害が起きたと、校長先生が全校集会で話されました。私は神崎市でそのような水害が起きたことを知りませんでした。数多くの家が浸水被害にあつたそうです。つまり、神崎市がいつまた被害にあうか分からないということです。私は、災害は遠い場所の話ではないのだと思いました。校長先生の話聞いて、災害が急に身近な場面で起きるかもしれないと感じました。それで、学校で災害について学ぶことに、真剣に取り組まなければならないと思いました。そして、私の住んでいる神崎市についてもっと知り、防災意識を高めたいと考えました。

異常気象の原因の一つとして、地球温暖化があるそうです。温暖化は、世界でも大きな問題になっています。温暖化の主な原因は、人の生活によって大気中に排出される温室効果ガスが関係しているそうです。

それでは、私たちが住んでいる地球を守るために、私たちは何をしたらいいのでしょうか。電気を使いすぎないこと、食べ物を残さないこと、節水、ごみの分別などが、温暖化を防ぐ効果があると言われています。私たちにもできることが、たくさんあると思います。たくさんの方が行動することで大きな効果が表れると思います。私の小さな行動も、温暖化をおさえるの

につながることを信じて、私たちの未来のためにやれることは実践していきたいと思います。そして、この活動が、少しでも災害が減ることにつながっていくことを願います。

日常が変わってしまうのは、災害だけではありません。最近、気になってしていることは、SNSなどから発展する問題で、闇バイトに関する事件です。稼げるバイトとしてSNSで募集されている仕事は、実は強盗などの犯罪に関わるというものです。これは、大人だけではなく、未成年も事件に関わっています。また、被害者は、盗難や住居に侵入されたり、傷つけられたりするなど、とても痛ましい事件が起きています。闇バイトと知らずに応募した人が、個人情報を知られてしまったために、相手から脅されて抜け出せなかったという人もいて、本当に怖いと思いました。このような事件は日本各地で起きていて、誰でも被害にあう可能性があると思いました。

家族はいつも「命が第一だよ」と言います。命があるからこそ日常があり、何でもできるという意味だそうです。だから、災害でも犯罪でも、危険を察知すること、正しい判断をすること、逃げることも大事だと思います。

二〇二四年は、悲しいニュースだけでなく、明るいニュースも多くありました。オリンピックもあり、佐賀で国スポも開催され、いつもの日常とは違う、感動した日もありました。それと生きていくからこそだと思います。

命を第一に守れる行動ができるようになるために、いつも社会の問題に目を向けなければならないと思います。今、社会でどんなことが起きているのか、住んでいる地域のことに興味

をもち、正しい情報を詳しく知る必要があります。その上で、当たり前前の日常を過ごせることが幸せだと思える、毎日を生きていきたいです。

私の成長と夢

千代田中学校 二年 中 座 貴 子

人を助ける仕事、人を成長させられる仕事に就くこと、それが私の夢です。そんな仕事の一つに学校の先生があると思います。学校の先生は生徒たちに勉強を教えること、ほかに生活面の指導をすることなどの仕事があります。自分以外のことを考えないといけないというのは、本当に大変なことだと思うのに、小学校でお世話になった先生から、いろいろなことを経験させてもらったことに、とても感謝しています。私は、先生のおかげで成長することができたと思います。先生と同じように、人を助けたりと成長させたりすることができると、人を笑顔にできるような仕事がしたいと思っています。

小学校一年生の時、体育大会の意気込みをみんなの前で発表しました。「がんばったね」「よかったよ」と先生に褒めてもらえたことがとてもうれしかったです。しかし、中学年、高学年になると周りを気にするようになって、人前に立つことが苦手になっていきました。以前から私は負けず嫌いでしたが、五年生の時にも体育でできないことがあり、一人でずっと練習し

ていました。ついにできるようになった時は、達成感でいっぱいでした。練習していた姿を先生が見てくださっていて、ほめられた時はとてもうれしかったです。

私自身、みんなに見えないところで一人でがんばることしか考えていませんでした。みんなのために前に立って何か役立つことや、挑戦することを何もしていませんでした。しかし、六年生になり、今までの気持ちが変わる出来事がありました。

最上級生になり、楽しく学校生活を送っていた頃、担任の先生が私に声をかけてくださいました。

「卒業式のピアノ伴奏をしてみない？」

私はピアノを習っているけれど、苦手意識があり、失敗したら怖いという不安で、すぐに「弾きたいです！」と言うことができませんでした。でも、先生からは「これをきっかけに挑戦してみたら？」と言われ、それから練習の日々が始まりました。時には、難しさや不安の気持ちで諦めそうになることもありました。でも、「負けず嫌いの私が、せっかく選ばれたのなら上手に弾こう。」と練習を一生懸命続けました。不安で自信がなかった私でしたが、だんだん「みんなの歌を支えたい。」という気持ちに変わっていき、自信が出てきました。この経験のおかげで、体育大会の副団長やドッジボール大会のキャプテンなど、みんなを引っ張る役割や、みんなのためにがんばる役割に進んで挑戦できるようになりました。

卒業式の日になりました。卒業式の言葉も一番最初に発する大事な役割で緊張していましたが、しっかりと言うことができました。そして、みんなの歌を支えて最高の卒業式にしたいと

いう気持ちで、自信をもってピアノを弾ききることができました。何回も何回も重ねた練習よりも、本番は最初から最後までうまく弾くことができました。同級生の保護者さんからも先生方からも「上手だったよ！」と言われて、忘れられないくらいうれしかったです。

このようなきっかけがあって、中学生になった今でも、伊東玄朴についての発表を学校の代表として行ったり、体育大会で応援リーダーになったり、合唱コンクールで伴奏をしたりと、誰かのためにがんばる、支える、挑戦することができています。苦手だったピアノも、発表会に出ることや自分が弾きたい曲の練習をがんばっています。今回のこの作文も、本当は書くことが苦手だけれど、私の気持ちを伝えたいと思い、挑戦することができました。

以前の私から、今の私へと成長するきっかけを作ってくださった先生に、とても感謝しています。先生は、私にとって憧れの先生です。

中学生になって先生方の様子を見ると、毎日いろいろな性格のたくさん生徒を見ないといけないのは難しそうだな、大変そうだなと感じます。忙しそうなのに、みんなに笑顔で接してくださる先生方に、元気をもらっています。今、私が楽しく過ごしているのは、仲良くしてくれる友達や、先生方、見守ってくれる家族のおかげだと思っています。

これから、人を助ける、成長させられる仕事に就くためには、小さなことでもいいから人のため、自分のために挑戦し、勉強でも努力していろいろな経験を積み、人の気持ちが考えら

れることだと思います。夢を探し、自分自身の道を歩んでいきたいです。

今まで出会った先生方や、家族のように温かく、人を笑顔にできるようになりたいです。そのために、今までとこれからの日々を大切にがんばっていききたいです。

私たちにできること

神埼高校 一年 松尾 桃花

今年の一月一日、石川県で能登半島地震が発生し、多くの命や環境が奪われるという想像のできない出来事が起こりました。そんな中、日本赤十字は被災地の支援を行い、希望を届けるために自分たちでできることは何かを考えてそれぞれができる被災地の活動を続けています。私はその姿に感動し、多くの人を助け、笑顔にできる赤十字の活動に興味を持ちました。

高校生になり、本格的に青少年赤十字ボランティア活動に参加しました。多数の生徒が命と健康を大切に、地域社会との繋がりを意識しながら自身の奉仕の精神を育成することを目的として活動しています。そこで私は、「手話」「熱中症予防」「心肺蘇生とAEDの使い方」「防災」など幅広く学んでいます。更に知識や技術、経験を養いたいと思い、リーダーシップトレーニングセンターに参加しました。その中で私が印象に残った言葉があります。「ForからWithへ」です。困っている

人に何かをしたい、役に立ちたいという感情は誰にでもあると思います。人間同士共に学び合い、行動していくことが大切です。

これらの経験を通じて、更に赤十字に興味を持ち、活動の一つである献血について調べてみました。献血とは、病気の治療や手術などで輸血を必要としている患者さんの尊い命を救うために、十六歳から六十九歳の健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアのことです。献血は、痛い、怖い、時間がかかるといったマイナスイメージばかりが先行していて、献血をする若者が減ってきています。しかし、実際に献血で救われる命がたくさんあるのは事実です。私の祖父は病気で輸血が必要となり、命を助けてもらったそうです。私自身も十六歳になったら献血をして、誰かの命の役に立ちたいと思いました。

献血以外にも、募金活動やリサイクル活動、ゴミ拾いなど、私たちにできることは数多くあります。ボランティア活動を行うことで、幅広い世代の人と交流が生まれ、感謝の言葉をもらうことが増えました。また、普段できない経験や学びを得ることもできます。人の役に立ち、社会貢献できることに喜びを感じています。

「気づき、考え、実行する。」ことを大切にして、社会のため、人のために尽くすこと。社会の一員であることを自覚し、様々なことが実行できる強い心を持って、今後も生活していきたいです。

再挑戦

神埼高校 一年 宮 原 叶 有

私は中学校で剣道部に入部しました。初めの頃は全てが新しく、毎日稽古に取り組むことができていました。しかし、練習試合では負け続けて結果が出ず、気がつけば真剣に稽古に取り組むことができなくなっていました。そんな中で、中学校最後の夏がやってきました。私はキャプテンを任されて、部員を引っ張っていく立場となりました。それによって、責任感を持って以前より真剣に稽古に取り組むことができるようになりました。

しかしながら、最後の試合の結果は全く納得のいかないものとなってしまいました。

その後、私はもう剣道をすることは二度とないだろうと思っていました。剣道は自分には合っていない。高校で剣道をしたとしても、長続きはしないだろうと決めつけていたのです。

高校に入学してから、部活動見学の期間がありました。入学当初から入部する気などないのに、剣道部はどんな感じなんだろうと考えてしまっていました。気がつけば、放課後帰宅する足をとめ、剣道場の前に足を運んでいたのです。そこで実際に剣道部を見学して、自分の心情に気づかされました。中学生の頃は結果ばかりにとらわれてしまい、負けることが怖くなっていたのです。その気持ちに邪魔をして体が思うように動かずに負けてしまうという状態でした。試合相手との勝敗の前に、自

分自身に負けていました。見学をして、気持ちに打ち勝つために再び稽古を積み、勝つ喜びを味わいたいと思うようになりました。もちろんすぐに結果が出るわけではありません。しかし、負けることを恐れず、自分の成長を一步步楽しんでいくために、剣道部への入部を決意しました。

私は今、顧問の先生や先輩方、同学年の部員に支えられながら剣道をしています。必要とされる存在になるためにも、結果にとらわれず、自分の力を信じて心も技術も磨き自分自身を成長させていこうと思いました。まずは、レギュラーメンバーに入り、自分の力で試合を盛り上げるという目標を持って、今後稽古に励んでいこうと思います。これが私の再挑戦です。

自分の将来

神埼高校 二年 立 石 悠 河

私は小学生の頃から野球を続けてきたが、それを通して大きく成長することができた。昔は人前に出ることが恥ずかしく、大勢の前で自分の思っていることをはっきりと口にすることもできなかった。しかし、同級生や先輩、後輩、チームの監督やコーチ、保護者の方々など、多くの人と接していく中で、少しずつ成長することができたことを実感している。

その時その時は、そんな風に思うことはなかったが、今、思い返すと本当に感謝の気持ちしかない。人前に立つことが恥ず

かしくてたまらなかった私が、今は生徒会長として全校生徒の前に出て自分の思いを伝え、人のために動くことのできる人間になった。これは野球を続けてきたおかげだと感じている。野球を始めていなければ、今の私はなかっただろう。たくさんの人に支えてもらったからこそ、今の私があると思っている。

正直に言うと、野球を辞めようと思ったことは何度もある。周りの同級生や下級生が結果を出す中、まったく思い通りにいかずに周りとの差が開いていき、『自分に野球は向いていないのではないか』と感じたこともあった。グラウンドへ行くことが嫌になることもあった。それでも、心の奥底では、野球をしている時間は楽しいという思いがあったからこそ、辛い時に励まし合える仲間がいたからこそ、野球を続けることができたし、中学校三年生の時にはチームのキャプテンとしてチームを引っ張っていくキャプテンを任せてもらえた。最初は自分に務まるだろうかと不安を感じたが、一生懸命務めることで、自分のプレーだけではなく周囲のプレーを見る力をつけることができた。また、一つの集団をまとめることの大変さも学ぶことができた。

今でもまだ、野球から逃げ出したいと思う時があるし、毎日の練習の中でミスをしてしまったり、結果が出せず悔しい思いをしたりすることもある。これから先もきつとあるだろう。それでも、その時その時に、自分にできること、自分が成すべきことは何かを考え、全力でやり切って、『悔いのない二年半だった』と大人になった時に思える日々にしたいという気持ちで日々頑張っている。

そして今、大人になった時、次は私が野球というスポーツを通して恩返ししていきたいと思っている。指導者としてなのか、スポーツ用品に関わる仕事を通してなのか、具体的なことはまだ決めきれしていない。しかし、何らかの形で必ず野球に携わり、野球というスポーツの大変さの中にある楽しさやすばらしさ、努力することの大切さなどを、自分の経験をいかして、野球をしている大勢の人たち、また、将来の自分の子どもに、自分の言葉で伝えていき、誰かの成長に寄与していきたい。私がそうしてもらったように。今、そうしてもらっているように。そんな大人になることが私の夢だ。

私の挑戦

神埼清明高校 二年 大坪 由 真

私は、部活動で取り組んでいる書道で、今年、新しい挑戦をしました。

私が書道と出会ったのは、小学校四年生の時です。友達が習字教室に通っていて、私も同じ教室で習い始めました。一度、習字教室をやめました。が、本校の書道部の活動場所が神埼高校の書道室で、そこに友達がいたこと、また、友達も増えるといいなという思いもあり、書道部に入部することにしました。

書道部では、六月に「席書大会」があります。席書大会は、会場でお手本を見ずに書き、一番仕上がりが良かったものを提

出します。また、時々神崎市からの依頼もあります。特に今年は国スポがあったため、例年に比べてとても大変でした。ハンドボールや剣道の試合会場、そして神崎駅に飾る三作品を頼まれ、両校の部員皆で協力して仕上げました。

夏休みは、文化祭のパフォーマンスの練習をします。最初は先生のお手本を見ながら字を練習しますが、パフォーマンスなので、遠くの人が見てもわかるように体全体を使って動く必要があります。私は一番大きな「繫」という字の担当で、動きが一番大きくしなければならず、とても大変でした。一番苦労したことは、文字を書くスピードと、書き終わる時間の調整です。このパフォーマンスは、本来なら三年生が主役なのですが、今年は二年生と一年生の部員三人で頑張りました。三人という少ない部員数だったので、一人が受け持つ役割が多く、大変でした。パフォーマンスは、音楽が終わると同時に書き終わるのがとてもかっこいいのですが、私以外の二人は文字数が多く、時間に間に合わないという問題に追い込まれ、「パフォーマンスをやめる」という話も出ました。ですが、どうしても成功させたいという思いから、言葉を変えて、また一から頑張ることにしました。その結果パフォーマンスは成功したので良かったです。

秋には、総合文化祭があります。私は、一年生の時、総合文化祭に出す作品として、「王羲之」の「蘭亭序」という古典を選びました。王羲之の字には、書道家が一度は憧れるそうです。私も、初めて王羲之の字を見たときの衝撃は忘れられません。そのため、王羲之の古典に決めましたが、選んだものが私

には向いていなかったのか、十分納得のいく作品ができませんでした。

そこで、今年提出する作品は、王羲之のリベンジをすると決めていました。私は、造像記という書体が得意なので、昨年の蘭亭序の行書のような書体には少し苦手意識がありました。行書は字の大きさや間隔、風景がイメージできるような作品を意識しながらつくる必要があるのも、とても難しい書体です。それも覚悟して行書を選び、昨年のような結果には絶対にしないという強い思いで、練習を始めました。最初は、文字が入りきらなかったり、一文字が大きくなりすぎたりで、何度も嫌になりました。ですが慣れてくると、文字も入るようになり、字の大きさもしっかりと書き分けていけるようになりました。行書は、流れやつながりが大事なもので、すらすらと流れるように書いていくのがとても楽しかったです。そうして、いつのまにか行書への苦手意識はなくなりました。

私は、新しいことや、挑戦することがあまり好きではありません。それは、きつと失敗してしまったときのことを考えてしまい、やってみる前から諦めていたからだと思いました。そんな私が、今年この挑戦をして、挑戦することが楽しいと思えました。苦手だと思っていたことが案外楽しかったり、できなかったことができるようになるのはとても気持ちがいいものだと分かったりして、挑戦してみてもよかったと思いました。そして、新しいことに気づけたり、好きなものが増えるかもしれないということを知ったので、これからは怖がらずに何事にもどんどん挑戦していきたいです。

私の夢

神埼清明高校 二年 堤 芽衣

私は将来、パティシエになりたいと思い、神埼清明高校に入學した。高校卒業後も製菓専門学校に進学したいと考えていたが、本当にこの道に進んでいいのかという不安がある。

パティシエを目指したいと思ったのは、特別なきっかけがあったわけではない。祖母と母の趣味がお菓子作りで、道具がそろっていたこともあり、家庭でのお菓子作りは私にとって、とても身近なものだった。そのため小学生の頃からお菓子を作ることが好きで、作る度に家族や友人に喜んでもらえることが嬉しかった。家族から「好きなことを仕事にするのがいちばんいい。」とよく言われていたことからパティシエとして働く未来を考えていた。

しかし高校卒業後の進路や就職先など具体的なことを調べていくと、パティシエとしての現実には、厳しい面もあることを知った。ひとくちにパティシエといっても、就職先はさまざまで、場所によって仕事の内容や環境、給与などは変わってくる。バレンタインやクリスマスなどのイベント前には、大量にスイーツを作るため、営業時間外も仕込みや片付けなどで長時間労働をすることが多い。またデコレーションなどの細かい作業も多いため、集中力を継続させるために神経を使うことが多い。パティシエの仕事は体力的にも精神的にも負担がかかる。今の自分にパティシエとしての素質があるか、厳しい飲食業界

での仕事に耐えられるかと問われても、あまり自信はない。今はお菓子作りを趣味として楽しんでいるが、仕事にしたときに今のように楽しみながらお菓子を作るだろうかというのも不安の一つである。

それでもパティシエを目指したいと思うのは、周りの環境のおかげである。作ったお菓子を学校へ持って行ったときにどんなものでも「おいしい。」「元氣出たよ。」と言ってくれる友人、お菓子作りを失敗してしまったときでも「成功のもつだね。次はもっとおいしいお菓子を作れるよ。」と言ってくれる家族。そのなかでも父とパティシエの資格を持った江口先生には、大きな力をもらっている。

私の父は飲食店を経営している。パティシエを目指していると伝えたとき、家族の中で一番に応援してくれたのは父だった。「おいしいお菓子を作れたらうちのお店で出してみよう。お客さんの反応を見て、改善したり、売り出し方を自分で考えて工夫したりしてみよう。」と言ってくれたこともあった。父は自分の将来の道を自分で作るという機会を与えてくれた。食のプロとして働く父の姿から、自分の未来につなげられることはできるだけ多く吸収していきたい。パティシエの資格を持った江口先生にご指導いただけるきっかけとなったのは、文化祭の準備期間だった。パンやお菓子を作る実習をするとき、なぜこの工程が必要なのか、こうすることで焼き上がりにどんな違いが出るのかなど解説をしながら指導していただけることは私にとって、お菓子作りの楽しさを改めて感じられる出来事だった。今まで何となくレシピ通りにしていた工程にも意味がある

ことを知り、お菓子作りやパティシエに對しての興味が増すきっかけにもなった。江口先生からいただいた言葉に「パティシエは技術だけではない。誰かを笑顔にさせたり、おいしいと言ってもらえたりしたらそれはパティシエだ。」という言葉がある。その言葉は将来進む道に悩み、素直にお菓子作りを楽しむていなかった私にとって強く印象に残る言葉だった。今の私の技術が十分ではなくても、作ったお菓子で誰かを喜ばせたいという気持ちは人一倍ある。その気持があれば十分だと気がき、大きな自信につながった。

幼いころに夢見ていた理想のパティシエは、自分の作りたいお菓子を好きなように作ることができ、自分のスイーツを食べてくれた人の笑顔や喜びを感じることができるといふものだった。パティシエの厳しい現実を知った今でも私の中にはパティシエになりたいという希望がある。理想の姿を追い続けるのか、夢を諦めるのか、どの選択をするかまだはつきりとしていない。それでも自分の選択した道で夢を叶えるために努力し続けたい。

私の願い

神埼清明高校 二年 立石 愛

私の願いは、戦争や核兵器を使わない平和な世界になることです。

なぜこのテーマにしたのかというと、今年のノーベル平和賞を日本の「日本原水被害者団体協議会」が受賞したのをニュースや新聞で見たからです。なぜ、今年「日本原水被害者団体協議会」が選ばれたのでしょうか。理由としては、「核兵器を使わない平和の実現に向けて努力してきたこと」や「核兵器が二度と使われてはならないと、証言を通して示してきたこと」が挙げられていました。そして、長崎県と広島県に原子爆弾が投下されてからちょうど八十年が経つというこの機会に平和賞を受賞したと書いてありました。このことを聞いて、戦争の恐ろしさや核兵器の恐ろしさを全世界に広めていくことが大切なのだと思います。近い国同士の間立や遠い国同士の間立によって起こる戦争は一つも良いことはありません。例えば、当たり前の日常が当たり前ではなくなり、家族や友達と離れ離れになってしまいます。離れ離れになってしまふと、一生会えなくなり、話すこともなく顔を見ることがなくなります。そんな中で、関係のない人たちの命を無差別に奪っていい理由はありません。

日本でも過去に戦争を経験し、原子爆弾が二度投下されています。戦後約八十年になり記憶は薄れがちですが、この辛さや苦しみを忘れてはいけません。その中で、死者が大勢いたり、病気で苦しむ思いをしたりした人たちがいます。現在、世界各国に目を向けると、戦争で苦しんでいる人が大勢いるので平和な世界になってほしいと思っています。戦争をすることで苦しまなければならぬ人が大勢出てきます。今までの何気ない日常が大きく変化し、辛くて苦しく、大変な思いをしてきたと思

います。そして、巻き込まれ苦しみを味わった人たちはその苦しみを一生背負って生きていかなければなりません。そのような、大勢の人たちが苦しむ世の中にはなっていないかと思うからです。

現代の子供たちと戦時中の子供たちの生活の違いに目を向けると、現代の子供たちは、やりたいことや自分が好きなことをするなど何不自由のない生活ができています。そして、食事面でも生活面でも恵まれています。家族や友達と楽しい話をして毎日笑顔が絶えません。何より、戦争の恐ろしさや原子爆弾の恐ろしさを知りません。しかし、戦時中の子供たちはいつ原子爆弾を抱えた飛行機が飛んで来るのか、防空壕にいち早く身を隠さなければいけないという怖さ、戦争が起きたら特攻隊員のお世話をしなければならぬという責任。そして、食事も少なく原子爆弾が落ちるとかつて住んでいたところは炎に包まれ帰る場所がなく、苦しく辛い思いをしてきた人たちが大勢いたといえます。世界に目を向けると今でも戦争は起きています。日本で起きていないから無関係というわけではありません。ニュースや新聞をみて、私は「今は日本で戦争が起きていないから大丈夫」「日本とは無関係のこと」など無関心なことや興味を示さないようなことを言ってはならないと思いました。現代の子供たちの生活と戦時中の子供たちの生活を比べると現代の日本がどれだけ平和なのかが分かります。

私は、この三つの理由から世界から戦争や核兵器が消え、戦争の苦しさや辛さを味わうことなく、大勢の人たちに平和が訪れることを願っています。そして、私が六十代になった時代に

は戦争も核兵器もなくすために、今私たちができることに取り組むべきだと思います。例えば、今までに残念ながらも起きてしまった原子爆弾の投下のことや、戦争の恐ろしさ、辛さについてこれから小さな子供から高齢の方まで全員が今まで以上に自ら進んで学び、後世に忘れられることなく伝わっていくことが大切だと思います。そして、一人一人が戦争をしてはいけないということや核兵器の恐ろしさを全世界に広めていくことが大切だと思います。そこで、私の願いは戦争や核兵器のない平和な世界になることです。

「夢」と「願望」の関係性

神埼清明高校 二年 溝 渕 杏

私にはたくさんの夢がある。私は将来心理カウンセラーになりたい。将来は好きな人と結婚して家庭を築きたいし、カッコいい車にも乗りたい。好きな仕事をして、好きなものに囲まれて、好きな人達と生活をする。これらが私の夢である。たくさんの夢が私にはある。たくさんの夢のことを考えているうちに、これは「願望」なのか「夢」なのかという違いが自分の中で曖昧であったことに気づいた。自分が語っている夢がもしかしたら願望なのか、いま私が願っている願望は一般的にみると夢ととらえられるのか。そこで私は、自分なりに「夢」と「願望」の関係について考えてみることにした。

まず、インターネットで、夢と願望の違いについてそれぞれ言葉の意味を調べてみた。言葉の意味という視点での検索結果は、「夢」は将来実現したいと思う事柄、「願望」は様々なことを願望むこと、となった。例を挙げると、ジョギングをした後、のどが渴いたから水を飲みたい。これは願望に当てはまる。これを夢という人はなかなかいないだろう。このように、比較的叶えやすい願望のことを「願望」というと書いているサイトが多かった。それに比例して、叶えることが難しい願望が「夢」といわれると書いてあるサイトも多くあった。

言葉の意味が分かった上で自分なりに「夢」と「願望」の関係について考えた。私の考えは、「夢をかなえる過程の中に願望があるのではないか」というものだ。私の夢を例に挙げると、心理カウンセラーになることが夢であれば、その手前にある心理カウンセラーになるために大学に行きたいということは願望であるのではないかということだ。心理カウンセラーになるためには、特に資格はいらないが、公認心理士という資格を持つていると、職の幅が広がる。公認心理士は国家資格であるため、大学に通い、勉強をして、国家試験を受験する必要がある。心理カウンセラーになるという目的の中に国家資格を取得するために大学に通うという過程があるから、それは心理カウンセラーになるより比較的叶えやすい事象だと思う。よって、国家資格を取得するために大学に行きたいということは願望で、その先にある心理カウンセラーになりたいという願望は、夢なのではないかと考える。

もう一つ例を挙げると、カッコいい車に乗るためにはたくさ

んのお金が必要である。お金を稼ぐにはアルバイト、もしくは就職して仕事をしなければいけない。カッコいい車に乗るために仕事をしてお金を貯めたいということは、車を買うという目的の中に車を買うためのお金を貯めるという過程があるから、それは車を買うより比較的叶えやすい事象だと思う。よって、車を買うためにお金を貯めることが願望で、そのお金でカッコいい車を買うことは夢に当たると考える。これが私の持論である。

夢と願望の違いが自分の考えの中で明確になってきたときに、新たな疑問がわいた。私の考えをもとにすると、いずれ夢も願望になる時が来るのかという疑問だ。夢の前に複数の願望があり、それを着々と叶えられた場合、いずれ夢であった目的が目の前にやってくるはずだ。そうなったとき、その夢はその時の自分において願望となるのか、それともその目的は夢のままであるのか、ということだ。

私は、夢であると考え。先ほどの私の持論に当てはめて考えると、夢を叶える過程が願望であるという考えから、その過程が終了し、その目標にたどり着いたとき、自分の夢を叶えたという結果になるのではないかと私は思う。気持ちの面でも、願望を叶え続けた、と思うよりも、たくさん努力をして夢を叶えたと思うほうが、達成感が強いのではないだろうか。

私の持論を元に考えると、夢を叶えるためには、願望も叶えなければならないということだ。願望を叶え続けた最終地点に、夢を叶えるという大きな喜びがあるのではないか。それならば私は、願望も夢も積極的に公言することによって、自分の

中でどちらも叶えるという強い意志を持って、日々生活していかなければいけないと考えた。

特別出演



みなさん、こんにちは!!

元気いっぱい、笑顔あふれる神埼中学校吹奏楽部です。現在2年生6名1年生7名計13名で活動しています。

とても少ない人数ですが、皆さんに楽しんでいただけるように、日々練習を頑張っています。

お昼のコンサートや文化発表会など学校内の演奏だけでなく、地域の行事や、小学校などで演奏をさせていただいています。今回、地域の行事に参加することができ大変嬉しく思います。

今後も神埼中学校吹奏楽部の伝統の言葉である

「音楽を心で奏で、伝える 音伝心奏」

を胸に頑張っていきますので、どうぞ応援よろしくお願い致します。

今日は、「ジャンボリミッキー」「宝島」今大変話題の、「ケセラセラ」などをお送りいたします。皆さまの心に届くように楽しく、心を込めて演奏します。

短い時間ですが、一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

よろしくお願いします。

